本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための留意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第 1 章　ご購入後の操作

お買い求めいただいたパソコンを使えるようにするための操作を説明しています。必ず本書の手順に従って操作してください。

第 2 章　快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや、画面の設定方法などについて説明しています。

第 3 章　リカバリと再インストール

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」とソフトウェアの「再インストール」について説明しています。

第 4 章　困ったときに

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

目次

第 3 章　リカバリと再インストール

第 4 章　困ったときに

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
▶	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
        ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
- コマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、［CD-ROM ドライブ］と表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

  ```
  [CD-ROM ドライブ]:¥setup.exe
  ```

■ 画面例

本書に記載されている画面は一例です。実際に表示されるウィンドウやファイル名などとは異なる場合があります。ご了承ください。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「－」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」の項目を「使用しない」に設定します。

↓

「メイン」－「フロッピーディスク A」：使用しない

■ フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブ

フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブが搭載されていないモデルの場合、各ドライブが必要な操作では、別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、『システム構成図』をご覧ください。

周辺機器の使用方法については周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ お問い合わせ先／ URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2001 年 7 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（••▶『修理サービス網一覧表』参照）。

■ 製品の呼びかた

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

<table>
<tr><th>製品名称</th><th colspan="2">本書での表記</th></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® Millennium Edition</td><td>Windows Me</td><td rowspan="5">Windows</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION</td><td>Windows 98</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® 95 operating system</td><td>Windows 95</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® 2000 Professional</td><td>Windows 2000</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0</td><td>Windows NT</td></tr>
<tr><td>Microsoft® MS-DOS® operating system</td><td colspan="2">MS-DOS</td></tr>
<tr><td>VirusScan Ver.4.5.0 with SP1</td><td colspan="2">VirusScan</td></tr>
<tr><td>Adobe® Acrobat® Reader 4.05</td><td colspan="2">Acrobat Reader</td></tr>
<tr><td>Phoenix® Portables Suite</td><td colspan="2">Portables Suite</td></tr>
<tr><td>Intel® SpeedStep™ Technology Applet</td><td colspan="2">Intel SpeedStep</td></tr>
<tr><td>ドライバーズ CD ／マニュアル CD</td><td colspan="2">ドライバーズ CD</td></tr>
</table>

■ 機種名表記

本文中の機種名表記は、次のようになっています。機種名を確認してください。

<table>
<tr><th>機種名</th><th colspan="2">本文中の表記</th></tr>
<tr><td>FMV-6113NA9/B</td><td>〔NA〕</td><td rowspan="4">本パソコン
パソコン本体</td></tr>
<tr><td>FMV-6000NU/L
FMV-6700NU9/L
FMV-675NU9/L</td><td>〔NU〕</td></tr>
<tr><td>FMV-6750MR9/L</td><td>〔MR〕</td></tr>
<tr><td>FMV-6700MF9/X
FMV-660MF9/X</td><td>〔MF〕</td></tr>
</table>

モデル	本文中の表記
モデム搭載	モデム搭載モデル
LAN 搭載	LAN 搭載モデル

第 1 章

ご購入後の操作

お買い求めいただいたパソコンを使えるようにするための操作を説明しています。必ず本書の手順に従って操作してください。

1 セットアップ

初めて電源を入れたあとに行う Windows の初期設定（Windows セットアップ）について説明します。必ず、本書の手順に従って操作してください。

Windows セットアップ

次の「留意事項」をよくお読みになり、電源を入れて Windows セットアップを始めます。
なお、内蔵ポインティングデバイスがない場合 には、あらかじめマウスを用意してください。

■ 留意事項

- Windows セットアップを行う前に、周辺機器を取り付けないでください（カスタムメイドオプションを除く）。Windows セットアップを行う前に周辺機器を取り付けると、Windows セットアップが正常に行われない場合があります。
- Windowsセットアップを行う前にメモリを増設しないでください。正しくセットアップされないことがあります。
- 〔NA〕〔NU〕のワイヤレスマウス添付モデルは、内蔵ポインティングデバイスで Windows セットアップを操作してください。
- LAN 搭載モデルは、セットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示される場合があります。
- セットアップ中に「DHCP クライアントは IP アドレスを取得できませんでした。」または「DHCP クライアントはIPアドレスのリース書き換えを行えませんでした。」というメッセージが表示されることがあります。この場合は「はい」をクリックし、セットアップを完了させてください。セットアップ終了後、正しくネットワークを接続、設定してください。

■ セットアップ

1 内蔵ポインティングデバイスがない場合、マウスを取り付けます（ ••▶『ハードウェアガイド』参照）。

2 AC アダプタを接続し、本パソコンの電源を入れます（ ••▶『ハードウェアガイド』参照）。

しばらくすると、「Windows NT Workstation セットアップ」ダイアログボックスが表示され、セットアップが始まります。

3 「次へ」をクリックします。

「使用許諾契約」が表示されます。
「使用許諾契約」とは、本パソコンにあらかじめインストールされている Windows を使用するうえでの契約を記述したものです。

4 「使用許諾契約」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

POINT

- 「同意しません」をクリックし、「次へ」をクリックすると、「…使用許諾契約に同意しないと指定しました。」と表示されます。「いいえ」をクリックすると「使用許諾契約」のダイアログボックスに戻ります。「はい」をクリックすると「致命的なエラー」ダイアログボックスが表示されるので「OK」をクリックしてください。次に表示されるダイアログボックスで「閉じる」をクリックすると、本パソコンが再起動します。

「名前と組織名」のダイアログボックスが表示されます。

5 「名前」と「組織名」を入力し、「次へ」をクリックします。
組織名は省略できます。
コンピュータ名を入力するダイアログボックスが表示されます。

6 コンピュータ名を入力し、「次へ」をクリックします。
「管理者アカウント」ダイアログボックスが表示されます。

7 「パスワード」と「パスワードの確認入力」にパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。

POINT

- パスワードでは大文字／小文字が区別されます。
- 「パスワード」を入力して「次へ」をクリックした場合、「戻る」をクリックして再びパスワードの設定画面に戻ることはできません。

「セットアップは終了しました。」と表示されます。

8 「完了」をクリックします。
本パソコンが再起動し、「オペレーティングシステムの選択」画面が表示されます。

9 【Enter】キーを押します。
しばらくすると、「ログオンの開始」ダイアログボックスが表示されます。

10 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
「ログオン情報」ダイアログボックスが表示されます。

11 手順 7 で入力したパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
「ようこそ」ダイアログボックスが表示されます。

12 「閉じる」をクリックします。

13 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

14 「コンピュータを再起動する」をクリックし、「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

15 ログオン後、デスクトップの「必ず実行してください」アイコンをダブルクリックします。

「必ず実行してください」ダイアログボックスが表示されます。

重要

- 「必ず実行してください」を行わないと、セットアップの最終設定が行われません。必ず手順どおりに実行してください。

16 「OK」をクリックします。

自動設定が行われ、本パソコンが再起動します。アイコンが消えたら、設定は終了です。

重要

- 「キャンセル」をクリックすると、最終設定が行われません。必ず「OK」をクリックしてください。
- アイコンが消えるまで、キーボードやポインティングデバイスを操作しないでください。
- Windows セットアップ時の、「必ず実行してください」を実行中、自動的に再起動された後に以下のメッセージが表示されることがあります。
  「ウィンドウステーションがシャットダウン中であるため、アプリケーションが初期化に失敗しました。」
  この場合は、「OK」をクリックし、「アプリケーションの終了」をクリックして、処理を続けてください。動作に問題はありません。

これで、Windows セットアップが完了しました。

■ セットアップ後

カスタムメイドオプションでアプリケーションを選択している場合は、『アプリケーション補足説明書』をご覧ください。

ネットワークの設定（LAN 搭載モデル）

LAN ケーブルを接続し、お使いの環境に合わせて設定を行ってください。また、ドライバーズ CD 内の README.TXT もあわせてご覧ください。

- 〔NA〕　¥Nt40¥Rtl8139¥README.TXT
- 〔NU〕〔MR〕〔MF〕　¥Nt40¥Landrv¥README.TXT

POINT

- ネットワークの設定を行うときに、「Windows NT Workstation 4.0 Disc1 」の CD-ROM を要求される場合があります。このときは、「参照」ボタンは押さずにファイル名のところに直接「c:¥support¥i386」と入力してください。

本パソコンは DHCP を使用するように設定されています。このため、DHCP サーバが存在しない環境では、起動時に一部動作が遅くなったり、「DHCP クライアントは IP アドレスを取得できませんでした」というメッセージが表示されることがあります。この現象を回避するためにネットワークの設定を変更する必要がある場合には、ネットワーク管理者にご相談ください。

スーパーディスクドライブユニットを A ドライブにする

スーパーディスクドライブユニットを A ドライブに設定する場合は、BIOS 設定で、次の項目を設定してください（••▶『ハードウェアガイド』参照）。

- 「メイン」－「フロッピーディスク A」: 使用しない
- 「詳細」－「その他の内蔵デバイス設定」－「フロッピーディスクコントローラ」: 使用しない

〔MF〕にスーパーディスクドライブを取り付ける場合は、「スーパーディスクドライブ取り付け時の設定〔MF〕」（••▶ P.92）をご覧になり設定してください。

ユーザー登録について

本パソコンのユーザー登録は、弊社 Web サイト「FM WORLD.NET 」（http://www.fmworld.net/）上で行えます。

ポータブル CD-ROM ドライブを使用するための設定

■ リカバリ CD-ROM 起動ディスクの作成

ポータブル CD-ROM ドライブを使用する場合は、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を作成する必要があります。
あらかじめ作成用のフロッピーディスクとラベルを 1 枚ずつ用意してください。
作成方法は次のとおりです。

POINT

- パソコン本体に内蔵 ATAPI の CD-ROM ドライブが搭載されていない場合は、CD-ROM から起動可能なパソコンで起動ディスクを作成してください。

1 必要に応じて周辺機器をパソコン本体に取り付けます（••▶『ハードウェアガイド』、周辺機器のマニュアル参照）。

2 「リカバリ CD-ROM」をセットします。

3 本パソコンを再起動します。

4 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。
起動メニューが表示されます。

5 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
「FMV リカバリ CD-ROM」画面が表示されます。

6 【N】キーを押します。
コマンドプロンプトが表示されます。

7 次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
makefd
```

8 「リカバリ起動ディスクを作成します」のメッセージが表示されたらフロッピーディスクをセットして、【Enter】キーを押します。

フォーマットが始まり、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」が作成されます。

作成した「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」は、ラベルを貼り、書き込み禁止の状態にしてお使いください。

ドライバのバックアップ

本パソコンに添付の「ドライバーズ CD」から、「バックアップディスク」を作成します。
「バックアップディスク」は、ドライバのインストールに使用します。

■ バックアップの内容

ソフトウェア名称	機種	フロッピーディスクの枚数	入力するフォルダ名
ドライバディスク for Windows NT(R)4.0 V1.1L10D	全機種	1	drv
Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter Windows NT(R) 4.0 LAN Driver V5.00.71	〔NU〕〔MR〕〔MF〕LAN 搭載モデル	1	landrv
Realtek RTL8139 PCI Fast Ethernet Windows NT(R) 4.0 LAN Driver V3.91	〔NA〕	1	rtl8139

次のものを用意してください。

- ドライバーズ CD
- 1.44MB 2HD フロッピーディスク（上記の表を確認し、必要な枚数を購入してください）
- フロッピーディスクのラベル（必要な枚数を購入してください）

■ バックアップ方法

1 「ドライバーズ CD」とフロッピーディスクをセットします。

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

3 コマンドプロンプトから、次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
format  a:
```

4 【Enter】キーを押します。

フォーマットが終了すると、ラベルの入力メッセージが表示されます。

5 【Enter】キーを押します。

6 【N】キーを押し、【Enter】キーを押します。

7 **コマンドプロンプトから、次のように入力し、【Enter】キーを押します。**

```
cd　/d　[CD-ROMドライブ]:¥nt40¥xxx
```

xxx には、上記の「バックアップの内容」の表のフォルダ名を入力します。

8 **コマンドプロンプトから、次のように入力し、【Enter】キーを押します。**

```
xcopy　*.*　a:　/s　/e　/h
```

9 **作成したバックアップディスクに、ソフトウェア名称を記入したラベルを貼り、書込み禁止の状態にします。**

ソフトウェア名称は、上記の「バックアップの内容」の表で作成したものを記入してください。

2 プレインストール仕様の確認

Windows セットアップが終了した時点での本パソコンの環境は、次のとおりです。
使用環境に合わせてシステム構成を変更してください。

ソフトウェア一覧

■ プレインストールソフト

名称	備考
Windows NT Workstation 4.0 （Service Pack6a）	「C:¥Winnt」フォルダにインストールされています。操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプ、および添付の『Windows NT Workstation ファーストステップガイド』をご覧ください。
電源切断用 HAL	Windows NT シャットダウン時に自動的にパソコン本体の電源を切るためのコンポーネントです。
Internet Explorer 5.01	WWW ブラウザです。
MS-IME97	日本語変換ユーティリティです。
Intel SpeedStep （FMV-6113NA9/B、FMV-6000NU/L、FMV-6700NU9/L、FMV-6750MR9/L、FMV-6700MF9/X）	電源の状態（AC アダプタまたはバッテリ）によって CPU クロックの周波数を落とすとともに CPU 動作電圧を落とすことで、消費電力を低下させます。
Windows 環境調査ツール （FM Advisor）	ご使用のパソコンの動作環境を調査し、アドバイスするべき情報がないかチェックします。また、パソコンの動作環境情報の取得ツールとしてもお使いいただけます。これらの情報を利用して問題の解決に役立てることができます（••▶ P.78）。
Acrobat Reader	PDF（Portable Document Format）書類を表示、閲覧、印刷できます。
FMV 診断	ハードウェアの故障箇所を的確に診断します（••▶ P.78）。
Easy CD Creator ※	データ CD や音楽 CD を作成するためのアプリケーションです。使用方法はアプリケーション内のヘルプをご覧ください。
DirectCD ※	CD-R や CD-RW に直接データを書き込むためのアプリケーションです。使用方法はアプリケーションのヘルプをご覧ください。

カスタムメイドオプションのアプリケーションについては添付の『アプリケーション補足説明書』や各アプリケーションマニュアルをご覧ください。
プレインストールソフトは、必要に応じてアンインストールしてください（••▶ P.21）。
※：カスタムメイドオプションで内蔵 CD-R/RW ドライブユニットを選択している場合

■ 添付ソフト（未インストール）

POINT

- 一部のソフトウェアの使用方法についてはヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

名前	備考
MS-IME98	日本語変換ユーティリティです。
Portables Suite	Windows NTの機能を補足するPowerPanel、NoteDock、Card Executive の 3 つのユーティリティの総称です（••▶ P.38）。
Alps Pointing-device Driver	フラットポイントの機能を拡張します。〔MF〕でスクロールボタンを使用するためには、Alps Pointing-device Driver が必要です。
セキュリティボタン〔NA〕※〔NU〕※〔MR〕〔MF〕	セキュリティボタンのパスワードを簡単に設定したり、ユーザーパスワードを設定／変更／削除したりできます。
ワンタッチボタン設定〔NA〕※〔NU〕※〔MR〕〔MF〕	セキュリティボタンをワンタッチボタンとして使えるようになります。ワンタッチボタンを押してアプリケーションを起動したり、メールをチェックしたりできます。
VirusScan	コンピュータウイルスを検出・駆除します（••▶ P.24）。
DeskView	パソコンのメモリ、ハードディスクなどの資産の情報を表示したり、パソコンを監視し発生した異常を参照できます。また、パソコンの電源を制御できます。
FM-Menu	ボタン式メニューから簡単にアプリケーションを起動できます。また、特定キーの入力や Windows 機能を制限します。
はじめよう！インターネット（@nifty）	インターネットのプロバイダである @nifty に入会できます。

※：カスタムメイドオプションでセキュリティボタンを選択している場合

デバイス一覧

POINT

- 本パソコンの仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。その際、デバイス名称などが本書の記述と異なる場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

デバイス	名称	備考
CD-ROM ※1	IDE CD-ROM（ATAPI 1.2）	
キーボード	PC/AT 106 日本語（A01）キーボード	
サウンド	〔NA〕〔NU〕〔MR〕 AC'97 Audio Ctrlr : SigmaTel Codec Driver のオーディオ 〔MF〕 YAMAHA AC-XG Driver のオーディオ YAMAHA SXG50 Driver のオーディオ	
ディスプレイアダプタ	〔NA〕 ATI Mobility M6 〔NU〕 Intel(R) Graphics Technology Device 〔MR〕 ATI Technologies Inc. Mobility 128 4X (日本語) 〔MF〕 ATI RAGE MOBILITY-M PCI (Japanese)	解像度：1024 × 768 または 800 × 600 ※2 色数：65536 色 リフレッシュレート：60Hz
ネットワークアダプタ※3	〔NA〕 Realtek RTL8139(A/B/C/8130) PCI Fast Ethernet Adapter 〔NU〕〔MR〕 Intel(R) PRO/100 VE Network Connection 〔MF〕 Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)	
フロッピーディスク	3 モードフロッピードライバ	1.44MB/1.23MB/1.2MB/720KB/640KB　の各容量のフロッピーディスクを読み書きできます。なお、スーパーディスクドライブ装着時は、1.44MB/720KB のフロッピーディスクのみ読み書きできます。
モデム※4	〔NA〕〔NU〕〔MR〕〔MF〕 Lucent Technologies Soft Modem AMR	モデム搭載モデルのみ表示されます。 Lucent Technologies Soft Modem AMR は V.90 対応のモデムです。

※ 1：内蔵 CD-ROM ドライブユニットまたは内蔵 CD-R/RW ドライブユニットを取り付けた場合
※ 2：解像度は機種によって異なります
※ 3：LAN 搭載モデル
※ 4：モデム搭載モデル

ドライブ構成

ドライブ	容量	備考
C	約 2GB	FAT（FAT16）
D	〔総容量〕－〔C ドライブの容量〕	NTFS
E	CD-ROM（CD-R/RW※）ドライブ	CD-ROM（CD-R/RW）接続時

※カスタムメイドオプション

FAT を NTFS に変換する方法については、「ファイルシステムの変換」（••▶ P.57）をご覧ください。

POINT

- NTFS に変換した場合、Windows NT 4.0、Windows 2000 以外のオペレーティングシステムからは、そのパーティションのファイルにアクセスできなくなります。
- 4GB以上に割り当てられたNTFSのパーティションに対しては、NTFSの圧縮機能は利用できません。利用するには、ディスクアドミニストレータなどを使用して 4GB 未満のパーティションを作成する必要があります。
- ハードディスクは、Ultra DMA に設定されています。

3 インストール／アンインストール

Windows セットアップの終了後、必要がある場合には、次の方法でソフトウェアのインストールやアンインストールを行ってください。

添付ソフトのインストール

重 要

- ソフトウェアのインストールを行った場合は、Windows NT Service Pack6a をインストールし直してください（••▶ P.74）。

■ MS-IME98 のインストール

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「Microsoft® IME98」の CD-ROM をセットします。

しばらくすると、「Microsoft IME98 セットアップ」ダイアログボックスが表示されます。

3 「継続」をクリックします。

メッセージに従ってインストールを続けます。

■ セキュリティボタンのインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]:¥nt40¥sec¥user¥setup.exe

POINT

- 管理者用セキュリティボタンをインストールする場合は、次のように入力してください。
  [CD-ROM ドライブ]:¥nt40¥sec¥supervisor¥setups.exe

メッセージに従ってインストールを続けます。

使い方については『セキュリティボタン取扱説明書』をご覧ください。

■ ワンタッチボタン設定のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]:¥nt40¥qtouch¥setup.exe

メッセージに従ってインストールを続けます。

POINT

- ワンタッチボタンは OS 起動中のみ使用できます。

使い方についてはヘルプをご覧ください。あわせて留意事項（••▶ P.97）もご覧ください。

■ VirusScan のインストール

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「ドライバーズ CD」をセットします。

3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]:¥nt40¥vsnt¥setup.exe

インストールが始まります。次の POINT を参照し、メッセージに従って操作してください。

POINT

- 「サービスアカウント情報」ダイアログボックスでは、管理者権限を持った「ユーザー名」とその「パスワード」を入力してください。

■ DeskView のインストール

インストール手順については、「ドライバーズ CD」内の「¥Update¥Etc¥Deskview¥Read1st.txt」をご覧ください。

重 要

- Portables Suite をお使いになる場合
  NoteDock と併用すると DeskView 上でマルチベイユニットの情報が正しく表示されません。DeskView をお使いになる場合はホットスワップ機能およびウォームスワップ機能を次の操作を行い、無効に設定してください。
  1. タスクバーの「NoteDock」アイコンを右クリックし「開く」をクリックします。
  2. 「ベイ設定」をクリックし「ベイデバイスのホットスワップ機能（H）を有効にします」のチェックボックスをクリックしてチェックを外します。
  3. 本パソコンを再起動します。

■ FM-Menu のインストール

1. 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥nt40¥fmmenu¥setupfm-menu.exe
   メッセージに従ってインストールを続けます。

■ はじめよう！インターネット（@nifty）のインストール

1. 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥nt40¥niftysgn¥niftysgn¥setup.exe
   メッセージに従ってインストールを続けます。

重 要

- 「セットアップ完了」ダイアログボックスが表示された場合は、「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」をクリックし、インストールを終了させてから、「スタート」ボタン→「シャットダウン」→「コンピュータを再起動する」の順にクリックし、本パソコンを再起動させてください。

アンインストール

■ 留意事項

アプリケーションをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- 起動中のアプリケーションをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない
  DLL ファイルを削除すると、他のアプリケーションが正常に動作しなくなることがあります。アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

■ アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
  アプリケーションにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「アプリケーションの追加と削除」機能を使用する
  「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」機能を使用してアプリケーションを削除できます。

アンインストール方法はアプリケーションによって異なります。詳細は各アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

第 2 章

快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや、画面の設定方法などについて説明しています。

2

1 コンピュータウイルス対策

コンピュータウイルスはプログラムの 1 つで、なんらかの方法でコンピュータ内に読み込まれる（感染する）と、コンピュータウイルス自身で増殖し、大切なデータを壊したり、コンピュータを起動できなくしたりといった悪影響を及ぼします。

VirusScan

本パソコンにはウイルスを発見するためのソフトとして、VirusScan が添付されています。入手したフロッピーディスクや光磁気ディスクなどは、ウイルスチェックを行ったうえで使用してください。VirusScan の使用方法については、ヘルプをご覧ください。
VirusScan はご購入時にはインストールされていません。必要に応じてインストールしてください（••▶ P.19）。

■ 留意事項

- 「VShield」を起動していると、アプリケーションを正常にインストールできなかったり、ご使用のアプリケーションによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で「VShield」を使用不可にしてください。
  - ・「スタート」ボタン→「プログラム」→「Network Associates」→「VirusScan コンソール」の順にクリックします。「VirusScan コンソール」ウィンドウで「タスク」メニュー→「使用不可」の順にクリックします。
  - ・「VShield」アイコン（　）がタスクバーに表示されている場合は、そのアイコンを右クリックし、「終了」をクリックします。
- VirusScan でコンピュータウイルス検査を行っているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のフロッピーディスクを取り出したりしないでください。
- 本パソコンをフロッピーディスクから起動する場合、そのフロッピーディスクがコンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてから使用してください。
- VirusScan は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイル（DAT ファイル）と、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。DAT ファイルは次のサイトから無料でダウンロードできます。定期的に更新してください。
  http://www.nai.com/japan/
  スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の VirusScan をご購入ください。

コンピュータウイルスを発見した場合

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

重 要

- コンピュータウイルスに感染してしまい、本パソコンの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ご了承ください。

コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 951 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、情報処理振興事業協会（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（http://www.ipa.go.jp/security/）。

2 液晶ディスプレイの明るさを設定する

液晶ディスプレイの明るさは、8 段階に調節できます。

明るさを変更する

キーボードを使用して、液晶ディスプレイの明るさを 8 段階に調節することができます。
【Fn】キーを押しながら【F6】キーを押すと暗く、【Fn】キーを押しながら【F7】キーを押すと明るくなります。

POINT

- 本パソコンを再起動したり、スタンバイからレジュームしたり、AC アダプタの取り付けや取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変えられないことがあります。しばらくしてから、変更してください。

3 画面を設定する

ここでは、ディスプレイの解像度と色数を変更する方法と各機能について説明します。

解像度と色数について

本パソコンでは、「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「ディスプレイの設定」タブで次の解像度、色数が選択できます（次の設定以外はサポート外となります）。
また、CRT ディスプレイなどの外部ディスプレイの接続方法については、『ハードウェアガイド』をご覧ください。

■〔NA〕

<table>
<tr><th rowspan="2">解像度
（ドット）</th><th colspan="3">色数</th></tr>
<tr><th>液晶ディスプレイ</th><th>液晶ディスプレイ
+
外部ディスプレイ</th><th>外部ディスプレイ</th></tr>
<tr><td>640 × 480
800 × 600
1024 × 768</td><td colspan="2">256 色
65536 色
True Color ※2※3</td><td rowspan="2">256 色
65536 色
True Color ※3</td></tr>
<tr><td>1280 × 1024
1600 × 1200</td><td colspan="2">256 色※1
65536 色※1
True Color ※1※2※3</td></tr>
</table>

※1：仮想スクリーンモードになります。仮想スクリーンモードでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。このとき、「モニタ」を解像度以上のサイズに設定する必要があります。

※2：液晶ディスプレイではディザリング機能を使用して表示しています。

※3：色数は 16777216 色となります。

■〔NU〕

解像度 （ドット）	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ	外部ディスプレイ
640 × 480 800 × 600	256 色 65536 色 16777216 色※ 1		256 色 65536 色 16777216 色
1024 × 768	256 色 65536 色 16777216 色 ※ 1		256 色 65536 色 16777216 色
1280 × 1024	－		256 色 65536 色 16777216 色
1600 × 1200	－		256 色

※ 1：液晶ディスプレイではディザリング機能を使用して表示しています。

■〔MR〕

解像度 （ドット）	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ	外部ディスプレイ
640 × 480 800 × 600 1024 × 768	256 色 65536 色 True Color ※ 2 ※ 3		256 色 65536 色 True Color ※ 3
1280 × 1024 1600 × 1200	256 色※ 1 65536 色※ 1 True Color ※ 1 ※ 2 ※ 3		

※ 1：仮想スクリーンモードになります。仮想スクリーンモードでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。このとき、「モニタ」を解像度以上のサイズに設定する必要があります。

※ 2：液晶ディスプレイではディザリング機能を使用して表示しています。

※ 3：色数は 16777216 色となります。

■〔MF〕

解像度（ドット）	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ	外部ディスプレイ
640 × 480 800 × 600	256 色 65536 色 16777216 色※2 True Color※2※3		256 色 65536 色 16777216 色 True Color※3
1024 × 768	256 色 65536 色 16777216 色※2 True Color※2※3		256 色 65536 色 16777216 色 True Color※3
1280 × 1024※1	256 色 65536 色 16777216 色※2		256 色 65536 色 16777216 色

※1：液晶ディスプレイでは、仮想スクリーンモードになります。仮想スクリーンモードでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。このとき、「モニタ」を解像度以上のサイズに設定する必要があります。

※2：液晶ディスプレイではディザリング機能を使用して表示しています。

※3：色数は 16777216 色となります。

■ 留意事項

- 「テスト」をクリックしないでディスプレイの解像度や色数を変更し、画面が表示されなくなった場合は、Windows を VGA モードで起動し、再度ディスプレイの解像度や色数を変更してください。
- 外部ディスプレイ接続時、リフレッシュレートを変更すると表示位置がずれることがあります。この場合、外部ディスプレイ側で表示位置の調整を行ってください（••▶『外部ディスプレイの取扱説明書』）。
- 次の解像度を選択した場合は、Windowsの画面を通常表示または全画面表示に変更できます（••▶ P.32）。【Fn】＋【F5】キーで変更することもできます。
  800 × 600 ドット以下
- True Color および 16777216 色表示の液晶ディスプレイ画面は、ディザリング機能を使用して表示しています。
- Windows が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態になります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。

表示装置を切り換える

表示装置の切り換え方法は次のとおりです。なお、表示装置をあらかじめ取り付けてから（••▶『ハードウェアガイド』参照）、切り換えを行ってください。

■ 留意事項

- 〔NA〕〔MR〕〔MF〕の「ATI 画面」タブで表示装置を切り換える場合は、表示する表示装置の●を「プライマリ」に設定してください。
- 表示装置の切り換えの設定は次のようになります。
  - ・Windows が起動していない場合は、BIOS セットアップの設定が有効です。
  - ・Windows 起動中は「画面のプロパティ」ダイアログボックスの設定が有効（Windows を再起動後も有効）です。
  - ・〔NU〕では、外部ディスプレイを接続して、初めて電源を入れたときは、同時表示になります。
  - ・〔NU〕の【Fn】＋【F10】キーで切り換えた表示装置の設定は、「画面のプロパティ」ダイアログボックスの設定には反映されません。
  - ・〔NA〕〔MR〕〔MF〕の【Fn】+【F10】キーで切り換えた表示装置の設定は、「画面のプロパティ」ダイアログボックスの設定に反映されます。
  - ・〔NA〕〔MR〕〔MF〕で「画面のプロパティ」ダイアログボックスを表示中に【Fn】+【F10】キーで表示装置を切り換えても、「画面のプロパティ」ダイアログボックスの表示には反映されません（一度ダイアログボックスを閉じ、再度表示させると反映されています）。
  - ・Windows が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態に戻ります（〔NU〕は、「画面のプロパティ」ダイアログボックスの設定に戻ります）。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。
- 外部ディスプレイを接続した状態で、MS-DOS プロンプトをウィンドウ表示から全画面表示に切り換えると、表示デバイスが切り換わることがあります。
  また、MS-DOS プロンプトを全画面表示中に【Fn 】＋【F10 】キーで表示デバイスを切り換えると、MS-DOS プロンプトを終了したとき、あるいはウィンドウ表示に切り換えたときに、表示デバイスが切り換わることがあります。あらかじめご了承ください。
- 外部ディスプレイとして CRT ディスプレイを接続した場合は、「画面のプロパティ」ダイアログボックスで 85Hz 以上のリフレッシュレートを設定できるように見えますが、実際にサポートできる CRT ディスプレイの周波数は次のとおりです。
  - ・CRT ディスプレイのみの場合：

〔NU〕	1600 × 1200 ドット	60Hz
〔NA〕〔MR〕	1600 × 1200 ドット	60Hz ～ 75Hz
〔MF〕	1280 × 1024 ドット以下	60Hz ～ 85Hz

  - ・同時表示の場合：60Hz
- 外部ディスプレイで液晶ディスプレイ以上の高解像度を利用するには、それらの解像度を表示可能な外部ディスプレイが必要です。
- 液晶プロジェクタを本パソコンの液晶ディスプレイと同時表示で使用する場合、本パソコンの液晶ディスプレイと同じ解像度を表示可能な液晶プロジェクタが必要です。
- 外部ディスプレイまたは液晶プロジェクタによっては、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示の場合に、外部ディスプレイまたは液晶プロジェクタの画面が正しく表示されないことがあります。
- 同時表示時に、外部ディスプレイの画面が正しく表示されないことがあります。

- BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみで表示されることがあります。BIOS セットアップの画面も外部ディスプレイに表示したいときには、BIOSセットアップの「ディスプレイ」（••▶『ハードウェアガイド』参照）の項目を「外部ディスプレイ」または「同時表示」に設定してください。

■ キーボードを使用する場合

【Fn】キーを押しながら【F10】キーを押すと、表示装置は次の順に切り換わります（このとき【F10】キーを、間隔をあけて押してください）。

液晶ディスプレイ → 外部ディスプレイ → 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示→ 液晶ディスプレイ…

■「画面のプロパティ」ダイアログボックスを使用する場合

□〔NU〕の場合

1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「Intel(R) Graphics Technology」タブの「グラフィックのプロパティ」をクリックします。

「Intel(R) Graphics Technology Devece のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 「デバイス」タブをクリックし、表示する装置に☑を付け、表示装置を切り換えます。

POINT

- 「デバイス」タブは外部ディスプレイを接続すると表示されます。

4 「OK」をクリックします。

□〔NA〕〔MR〕〔MF〕の場合

1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「ATI 画面」タブで表示装置を選択します。

POINT

- 表示装置の切り換えを行う場合は、次の手順に従って操作してください。
  - ・液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示する
    1. をクリックして、「モニタ」と「パネル」の を押された状態にします。
    2. 「モニタ」と「パネル」をプライマリ に設定します。
  - ・液晶ディスプレイのみ、または外部ディスプレイのみで表示する
    1. をクリックして、「モニタ」と「パネル」の を押された状態にしてから、表示しないディスプレイの をクリックします。
    2. 表示するディスプレイがセカンダリになっている場合は をクリックし、チェックを外します。

3 「OK」をクリックします。

全画面表示と通常表示を切り換える

画面を通常表示または全画面表示に表示できます。液晶ディスプレイよりも小さな解像度に設定したときに、画面がディスプレイ中央に小さく表示または全画面表示されるようにするには、次の手順で設定を変更してください。

■ 留意事項

- 〔NU〕で液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を選択した場合は、全画面表示に切り換えることはできません。
- この操作は次の解像度を選択している場合に有効になります。
  800 × 600 ピクセル以下

■ キーボードを使用する場合

全画面表示と通常表示を切り換えるには、【Fn】キーを押しながら【F5】キーを押します。キーを押すごとに表示が切り換わります。

■「画面のプロパティ」ダイアログボックスを使用する場合〔NA〕〔MR〕〔MF〕

1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「ATI 画面」タブをクリックし、「パネル」をクリックします。
「パネルのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 「イメージをパネルサイズにする」の左側の またはをクリックします。
- ・ にすると、液晶ディスプレイよりも小さい解像度に設定した場合は、画面が液晶ディスプレイ中央に小さく表示されます。
- ・ にすると、液晶ディスプレイよりも小さい解像度に設定した場合は、画面が液晶ディスプレイ全体に大きく表示されます。

4 「OK」をクリックし、すべてのダイアログボックスを閉じます。

4 音量を設定する

音量を調節するには、ハードウェア（音量ボリュームまたはキーボード）で調節する方法と、画面に「音量つまみ」を表示させて調節する方法の 2 種類があります。
また、音声入出力時のバランスや音量の設定は、音量を設定するダイアログボックスで行います。

音量ボリュームまたはキーボードで調節する

お使いの機種によって、音量ボリュームまたはキーボードのどちらかで調節できます。
音量ボリュームまたはキーボードでの調節は、音量つまみで設定した音量を最大音量とし、その範囲で音を大きくしたり小さくしたりできます。

■ 音量ボリュームで調節する〔NA〕〔NU〕

本体側面の音量ボリュームで音量を調節できます。手前側に回すと小さく、奥側に回すと大きくなります。

POINT

- 音量ボリュームで音量を大きくしても音が聞こえない場合は、スピーカーの状態を確認してください。【Fn】キーを押しながら【F3】キーを押すと、スピーカーの ON と OFF が切り替わります。「ピー」と音がした場合はスピーカーが ON、音がしない場合は OFF になります。
また、音量を設定するダイアログボックスの設定がミュート（消音）になっていないか確認してください。

■ キーボードで調節する〔MR〕〔MF〕

キーボードで音量を調節するには、【Fn】キーを押しながら、【F8】キーまたは【F9】キーを押します。
【Fn】キーを押しながら【F8】キーを押すと音量が小さく、【F9】キーを押すと音量が大きくなります。
キーボードでの音量の調節は、17 段階に設定できます。

POINT

- 【Fn】＋【F9】キーで音量を大きくしても音が聞こえない場合は、スピーカーの状態を確認してください。【Fn】キーを押しながら【F3】キーを押すと、スピーカーの ON と OFF が切り替わります。「ピー」と音がした場合はスピーカーが ON、音がしない場合は OFF になります。
また、音量を設定するダイアログボックスの設定がミュート（消音）になっていないか確認してください。

画面上の音量つまみで調節する

音量ボリュームやキーボードで調節しても、音が大きすぎたり小さすぎる場合は、画面上に音量つまみを表示して調節します。

1 **タスクバーの「音量」アイコンをクリックします。**
音量を調節する画面が表示されます。

2 **音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。**
ミュートをチェックすると、音が消え、タスクバーの表示も変わります。

3 **デスクトップの何もないところをクリックします。**
音量を調節する画面が消えます。
消えなかった場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

POINT

- 音量つまみで設定した音量が、音量ボリュームまたはキーボードで調節した場合の最大音量となります。

再生時／録音時の音量設定について

■ 再生時の音量設定

1 **タスクバーの「音量」アイコンをダブルクリックします。**
音量を設定するダイアログボックスが表示されます。

2 **バランスや音量などを調節します。**

■ 録音時の音量設定

1 **タスクバーの「音量」アイコンをダブルクリックします。**
音量を設定するダイアログボックスが表示されます。

2 **「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。**
「プロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 **「録音」をクリックし、「OK」をクリックします。**

4 **バランスや音量などを調節します。**

ご購入時の音量設定は、次のようになっています。
なお、※がついている項目は、ご購入時には表示されていません。また、ミュートが「○」の項目は、ご購入時には音が聞こえないように設定されています。

POINT

- バランスや音量を設定しても、再生時／録音時の音量が小さい、または大きい場合は、音量を設定するダイアログボックスで、マイク音量の設定を行ってください。
  1. 「オプション」メニュー→「トーン調整」の順にクリックします。
  2. 「マイク」または「Microphone」の「トーン」をクリックします。
  3. 「そのほかの調整」で次の項目のチェックを確認してください。
     音量を大きくしたい場合はチェックを付けます。
     音量を小さくしたい場合はチェックを外します。
     〔NA〕〔NU〕〔MR〕Microphone Boost
     〔MF〕　Mic20dB 有効
- 表示されていない項目(※がついている項目)を表示させる場合は、次のように設定します。
  1. 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
  2. 「表示するコントロール」で、項目をクリックしてチェックします。
     項目が表示されるようになります。
- 解像度によっては、音量を設定するダイアログボックスの一部を表示できないことがあります。

■〔NA〕の場合

□再生時の音量設定

項目	ミュート	設定する音量
Volume Control	×	パソコン全体の音量
Wave	×	Wave ファイルの音量
Phone ※	×	モデムの音量
Microphone ※	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの音量
Line In	×	未使用
CD Player	×	音楽 CD の音量
Aux ※	○	未使用
Line Out ※	×	未使用
3D Depth ※	○	3D 効果の調整

□録音時の音量設定

項目	選択	設定する音量
Microphone	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの録音音量
CD Player	×	音楽 CD の録音音量
Aux ※	×	未使用
Line In	×	未使用
Stereo Mix ※	×	再生音全体の録音音量
Mono Mix ※	×	未使用
Phone ※	×	モデムの録音音量

■〔NU〕〔MR〕の場合

□再生時の音量設定

項目	ミュート	設定する音量
Volume Control	×	パソコン全体の音量
Wave	×	Wave ファイルの音量
Phone ※	×	モデムの音量
Microphone ※	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの音量
Line In	×	ラインイン・ジャックに接続した機器の音量
CD Player	×	音楽 CD の音量
ZV ※	○	未使用
3D Depth ※	○	3D 効果の調整

□録音時の音量設定

項目	選択	設定する音量
Microphone	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの録音音量
CD Player	×	音楽 CD の録音音量
ZV ※	×	未使用
Line In	×	未使用
Stereo Mix ※	×	再生音全体の録音音量
Mono Mix	×	未使用
Phone ※	×	モデムの録音音量

■〔MF〕の場合

□ 再生時の音量設定

項目	ミュート	設定する音量
ボリュームコントロール	×	パソコン全体の音量
テレフォン※	×	モデムの音量
マイクロフォン※	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの音量
ライン	×	ラインイン・ジャックに接続した機器の音量
CD オーディオ	×	音楽 CD の音量
ビデオ※	○	未使用
AUX ※	○	未使用
Wave アウト	×	Wave ファイルやソフトウェア MIDI の音量
3D ワイド	○	3D 効果の調整
モノアウト※	×	未使用
ZV ポート※	○	未使用

□ 録音時の音量設定

項目	ミュート	設定する音量
テレフォン※	×	モデムの録音音量
マイクロフォン	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの録音音量
ライン	×	ラインイン・ジャックに接続した機器の録音音量
CD オーディオ	×	音楽 CD の録音音量
ビデオ※	×	未使用
AUX ※	×	未使用
ステレオ アウト※	×	再生音全体の録音音量
モノアウト＋マイク※	×	未使用

5 Portables Suite

本パソコンには、Windows の機能を補足する Portables Suite（ポータブルスィート）が添付されています。

Portables Suite の特長

Portables Suite を利用することにより、Windows ではサポートされていない省電力機能、PC カードおよびマルチベイユニットなどのホットスワップ／ウォームスワップ機能を使用できます。
Portables Suite は、次の 3 つのアプリケーションより構成されています。

- PowerPanel（パワーパネル）：省電力機能のサポート
- Card Executive（カードエグゼクティブ）：PC カードのホットスワップのサポート、CardBus 対応の PC カードのサポート
- NoteDock（ノートドック）：〔NA〕〔NU〕〔MR〕のマルチベイユニットのホットスワップのサポート、〔MF〕のモバイルマルチベイユニットのウォームスワップのサポート

POINT

- ホットスワップとは、パソコン本体の電源を入れた状態で周辺機器の取り付け／取り外しを行うことです。
- ウォームスワップとは、パソコン本体をサスペンドした状態で周辺機器の取り付け／取り外しを行うことです。

Portables Suite のインストール

Portables Suite はご購入時の状態ではインストールされていません。必ず次の順番で、すべてインストールしてください。

1. Portables Suite インストール前の操作（→P.39）
2. Card Executive のインストール（→P.40）
3. NoteDock のインストール（→P.40）
4. PowerPanel のインストール（→P.41）
5. Portables Suite インストール後の操作（→P.41）

■ Portables Suite インストール前の操作

1 LAN ドライバやモデムドライバがインストールされている場合は、これらのドライバをアンインストールします。

・LAN ドライバのアンインストール（〔NA〕〔MF〕LAN 搭載モデル）
〔NU〕〔MR〕は LAN ドライバをアンインストールする必要はありません。

1. Windows を起動し、管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
2. 「ネットワークコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
3. 「アダプタ」タブをクリックします。
4. 「ネットワークアダプタ」から次の項目をクリックし、「削除」をクリックしてメッセージに従って操作します。
   〔NA〕 Realtek RTL8139(A/B/C/8130)PCI Fast Ethernet Adapter
   〔MF〕 Intel 8255X-based PCI Ethernet Adapter(10/100)

・モデムドライバのアンインストール

1. Windows を起動し、管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
   「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
3. 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
4. 「Lucent Technologies Soft Modem AMR」をクリックし、「追加と削除」をクリックしてメッセージに従って操作します。

2 Windows NT Service Pack6a 以降がインストールされていない場合は、インストールします（ご購入時の状態ではインストールされています）（▶ P.74）。

3 BIOS セットアップで次のように設定を変更します（▶『ハードウェアガイド』参照）。

・「省電力」メニュー内
サスペンド動作〔NU〕〔MR〕〔MF〕：
　　サスペンド（Save To Disk 機能を使用しない場合）
　　Save To Disk（Save To Disk 機能を使用する場合）
詳細設定
　　SUS/RES スイッチ（サスペンド／レジュームスイッチ）：使用する
　　「カバークローズサスペンド」と「カバーオープンレジューム」を「使用する」に設定することもできます。

■ Card Executive のインストール

1 Windows に管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「ドライバーズCD」をセットし、エクスプローラで次のフォルダにあるSetup.exe をダブルクリックして、インストールプログラムを起動します。

¥Update¥Psuite¥CExec-J

インストール中の操作は、画面の指示に従ってください。
インストールが完了すると Windows の再起動を確認するダイアログボックスが表示されます。

3 「再起動する」をクリックします。

再起動後 Windows へログオンすると、「Card Executive 2.0 for NT Diagnostics」ダイアログボックスが表示されます。

重 要

- 必ず再起動してください。再起動しないと、システムが正常に動作しなくなる可能性があります。

4 画面の指示に従って「PC カード診断」を実行します。

5 「PC カード診断」の終了後、PC カードがセットされていたら取り出し、表示されたダイアログボックスの「完了」をクリックします。

Windows が再起動します。

重 要

- 必ず再起動してください。再起動しないと、システムが正常に動作しなくなる可能性があります。

■ NoteDock のインストール

1 Windows に管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「ドライバーズCD」をセットし、エクスプローラで次のフォルダにあるSetup.exe をダブルクリックして、インストールプログラムを起動します。

〔NA〕　¥Update¥Psuite¥NDock-JA
〔NU〕〔MR〕　¥Update¥Psuite¥NDock-J
〔MF〕　¥Update¥Psuite¥NDock-WJ

インストール中の操作は、画面の指示に従ってください。
インストールが完了すると Windows の再起動を確認するダイアログボックスが表示されます。

3 「再起動する」をクリックします。

Windows が再起動します。

重要

- 必ず再起動してください。再起動しないと、システムが正常に動作しなくなる可能性があります。

■ PowerPanel のインストール

1 Windows に管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「ドライバーズCD」をセットし、エクスプローラで次のフォルダにあるSetup.exeをダブルクリックして、インストールプログラムを起動します。

〔NA〕 ¥Update¥Psuite¥PPanel-JA

〔NU〕〔MR〕〔MF〕 ¥Update¥Psuite¥PPanel-J

インストール中の操作は、画面の指示に従ってください。

3 Save To Disk機能を使用する場合は、Save To Disk領域を作成します（••▶ P.59）。

■ Portables Suite インストール後の操作

3 つのアプリケーションのインストールが終了したら、次の操作を行います。

1 モデム搭載モデルはモデムドライバをインストールします（••▶ P.72）。

2 〔NA〕〔MF〕LAN 搭載モデルは Portables Suite 対応内蔵 LAN ドライバをインストールします。〔NA〕は、ドライバーズ CD をセットしてください。

1. 「ネットワークコンピュータ」アイコンを右クリックし「プロパティ」をクリックします。
2. 「アダプタ」タブをクリックします。
3. 「ネットワークアダプタ」の「追加」をクリックします。
4. 「ネットワークアダプタの選択」ダイアログボックスで「ディスク使用」をクリックします。
5. 「フロッピーディスクの挿入」ダイアログボックスで次のように入力し、「OK」をクリックします。

   〔NA〕 [CD-ROM ドライブ]:¥update¥pslan

   〔MF〕 c:¥program files¥notedock¥ndis¥intel
6. 「OEM オプションの選択」ダイアログボックスで次の項目を選択し、「OK」をクリックします。

   〔NA〕 Realtek RTL8139 Family PCI Fast Ethernet Adapter

   〔MF〕 Intel(R) PRO(Onboard) Adapter
7. 必要に応じて、ネットワークの設定を行います。
8. ネットワークの「閉じる」をクリックします。
9. 表示されるメッセージに従って本パソコンを再起動します。

POINT

- 手順 1、2 の操作中に Windows NT 4.0 の CD を要求された場合は、「c:¥support¥i386」と指定してください。
- ネットワークドライブを指定していると、起動するとき接続に失敗することがあります。この場合は、起動後ネットワークドライブにアクセスすると、正常に使用することができます。

Portables Suite のアンインストール

Portables Suite のアンインストールは、必ず次の順番で行い、すべてアンインストールしてください。

1. PowerPanel のアンインストール（••▶ P.42）
2. NoteDock のアンインストール（••▶ P.43）
3. Card Executive のアンインストール（••▶ P.44）
4. ドライバと Windows NT Service Pack6a のインストール（••▶ P.45）

■ PowerPanel のアンインストール

1. PowerPanel を終了します。
2. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
   「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
3. 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
   「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「インストールと削除」タブから「Phoenix PowerPanel」をクリックし、「追加と削除」をクリックします。
   「ファイル削除の確認」ダイアログボックスが表示されます。
5. 「はい」をクリックします。
   「コンピュータからプログラムを削除」ダイアログボックスが表示され、アンインストールが始まります。
6. アンインストールが完了したら、「OK」をクリックします。
7. 「アプリケーションの追加と削除プロパティ」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。
8. 「コントロールパネル」ウィンドウの「サービス」アイコンをダブルクリックします。

9 「サービス」の一覧から「Phoenix PM」をクリックし、「スタートアップ」をクリックします。

10 「サービス」ダイアログボックスの「スタートアップの種類」の「無効」をクリックし、「OK」をクリックします。

11 「閉じる」をクリックします。

12 「コントロールパネル」ウィンドウの「デバイス」アイコンをダブルクリックします。

13 「デバイス」の一覧から「PhoenixAD」をクリックし、「スタートアップ」をクリックします。

14 「スタートアップの種類」から「無効」をクリックし、「OK」をクリックします。
「デバイス」の警告メッセージが表示されます。

15 「はい」をクリックします。

16 「閉じる」をクリックします。

17 Windows を再起動します。

■ NoteDock のアンインストール

1 〔NA〕〔MF〕LAN 搭載モデルは、LAN ドライバをアンインストールします（••▶ P.39）。

2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

4 「インストールと削除」タブから「NoteDock 2.0 for NT」をクリックし、「追加と削除」をクリックします。

5 「NoteDock 2.0 for NT のアンインストール」ダイアログボックスが表示されたら、アイコン付きのボタンをクリックします。

6 完了メッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

7 「再起動する」ダイアログボックスで「再起動する」をクリックします。

POINT

- いくつかのドライバを削除するように求めるダイアログボックスが表示されたら、そのドライバをアンインストールして Windows を再起動後、再度 NoteDock をアンインストールしてください。

■ Card Executive のアンインストール

1 PC カードがセットされている場合は、取り出します。

2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

4 「インストールと削除」タブから「Card Executive 2.0 for NT」をクリックし、「追加と削除」をクリックします。
「Card Executive 2.0 for NT のアンインストール」ダイアログボックスが表示されます。

5 アイコン付きのボタンをクリックします。

6 完了メッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

7 「再起動する」ダイアログボックスで「再起動する」をクリックします。

POINT

- いくつかのドライバを削除するように求めるダイアログボックスが表示されたら、そのドライバをアンインストールして Windows を再起動後、再度 Card Executive をアンインストールしてください。
  1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
     「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
  2. 「SCSI アダプタ」アイコンをダブルクリックします。
  3. 「ドライバ」タブをクリックし、該当するドライバを選択します。
  4. 「削除」をクリックし、ドライバを削除します。

■ HAL.DLL のリストア

「Card Executive のアンインストール」の手順 7 で、いくつかのドライバを削除する作業を行った場合は、次の手順を行ってください。削除しなかった場合は、この手順を行わないでください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

2 コマンドプロンプトから、次のように入力し、それぞれ【Enter】キーを押します。

```
cd c:¥winnt¥system32
copy hal.dll hal.org
copy hal.nt hal.dll
```

■ ドライバと Windows NT Service Pack6a のインストール

1 モデム搭載モデルはモデムドライバをインストールします（··▶ P.72）。

2 LAN 搭載モデルは LAN ドライバをインストールします（··▶ P.73）。

3 Windows NT Service Pack6a をインストールします（··▶ P.74）。

PowerPanel の操作方法

PowerPanel を利用することにより、Windows で省電力機能を使用できます。これにより、ディスプレイやハードディスクの省電力機能の設定やサスペンド／レジューム機能（··▶ P.51）などを利用でき、本パソコンの消費電力を抑えることができます。

■ PowerPanel の起動

PowerPanel をインストールしたあとは、再ログオンするか、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Phoenix PowerPanel」→「PowerPanel」の順にクリックすると、画面左側に PowerPanel ツールバーが表示されます。
このツールバーには、本パソコンのパワーマネージメントの設定を行うボタンと、本パソコンを省電力モードへ移行させるボタンの 2 種類のボタンがあります。

■ PowerPanel の終了

PowerPanel を終了するには、タスクバーの PowerPanel アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「閉じる」をクリックします。この際、PowerPanel は終了しますが、終了時点のパワーマネージメントの設定は継続されています。

■ プロファイル

PowerPanel ツールバーに登録されているボタンをプロファイルと呼びます。このプロファイルをクリックすることにより、パワーマネージメントの設定を簡単に切り換えることができます。
プロファイルは、変更および新規に作成できます。複数の設定を組み合わせて利用することにより、消費電力を抑えることができます。

□ 設定プロファイル

設定プロファイルを表示させるには、プロファイルを右クリックし、「開く」をクリックします。次の項目を設定できます。

● **システム**

・アイドル
指定時間までキー入力やデータの入出力がなかった場合、自動的に CPU のクロック周波数を下げます。〔NA〕では、この機能は設定に関係なく、使用できません。

・スタンバイ
指定時間までキー入力やデータの入出力がなかった場合、自動的に液晶ディスプレイの表示を消し、ハードディスクのモーターを止めます。オフに設定すると、この機能は無効になります。この設定は、ビデオスタンバイおよびハードディスクスタンバイよりも優先されます。

・サスペンド
指定時間までキー入力やデータの入出力がなかった場合、自動的にサスペンド状態または Save To Disk 状態に移行します。この際、BIOS セットアップの設定により、サスペンド状態または Save To Disk 状態への移行のどちらかを選択できます。〔NA〕では、設定に関係なく、Save To Disk 状態へ移行します。
・モデム着信レジューム
サスペンド中に電話回線からモデムに着信したときに、本パソコンをレジュームさせることができます。〔NA〕では、この機能は設定に関係なく、使用できません。
・時刻レジューム
指定した時間に本パソコンを自動的にレジュームさせることができます。指定方法は、時間（24 時間制）: 分 : 秒の「:」を含む 8 文字を入力してください。時刻レジュームを停止する場合は、「00:00:00」を入力してください。〔NA〕では、この機能は設定に関係なく、使用できません。
例：午前 3 時 10 分にレジュームさせる場合、「03:10:00」と入力します。

POINT

- **モデム着信レジューム、時刻レジュームが設定されている場合、Save To Disk 状態には移行しません。**
- **Windows は、ファイル操作時以外にもハードディスクに対してアクセスする可能性があります。このため、省電力モードに移行する時間が、スタンバイやサスペンドで指定した時間より多少遅くなることがあります。**

・ビデオスタンバイ
指定した時間までにキー入力やデータの入出力がなかった場合、液晶ディスプレイの表示を消します。
・ハードディスクスタンバイ
指定した時間までにハードディスクへのアクセスがなかった場合、自動的にハードディスクのモーターを止めます。
・内蔵モデムパワー
モデムへの電源供給を止めます。〔NA〕では、この機能は使用できません。

□ 省電力モードへ移行するプロファイル

本パソコンを省電力モードへ移行させるための、次のプロファイルが用意されています。このプロファイルの設定を変更することはできません。
・システムスタンバイ（ ）
このプロファイルをクリックすると、液晶ディスプレイの表示を消し、ハードディスクのモーターを止めます。復旧するには、キーボードかポインティングデバイスを操作します。
・システムサスペンド（ ）
このプロファイルをクリックすると BIOS の設定に関係なくサスペンド状態になります。ただし、〔NA〕ではサスペンド状態になりません。
・システム Save to Disk（ ）
このプロファイルをクリックすると、本パソコンの BIOS の設定に関係なくハードディスクの Save To Disk 領域にメモリの内容を待避します。ただし、Save To Disk 領域が設定されていない場合は、〔NA〕を除き、サスペンド状態になります。〔NA〕ではサスペンド状態になりません。Save To Disk 領域については、「Save To Disk 領域を作成する」（••▶ P.58）をご覧ください。

・ビデオスタンバイ（ ）
このプロファイルをクリックすると、液晶ディスプレイの表示を消します。
・ハードディスクスタンバイ（ ）
このプロファイルをクリックすると、ハードディスクのモーターを止めます。

重 要

- ハードディスクへアクセス中は、これらのプロファイルを実行しないでください。

POINT

- 利用方法の詳細は、PowerPanel のオンラインヘルプをご覧ください。
- システムサスペンドおよびシステム Save to Disk 後は、GlidePoint の機能（スクロールボタンやジェスチャ）は使えなくなります。

Card Executive の操作方法

Card Executive を利用することにより、PC カードのホットスワップや CardBus 対応の PC カードを Windows 上で利用できるようになります。Card Executive が対応している PC カードの一覧は、「ドライバーズ CD」内の「¥Update¥Psuite¥Readme.txt」に記載されています。
Card Executive でホットスワップサポート対象外となっている PC カードは、ホットスワップできません。従来と同じ方法で利用してください。

POINT

- Card Executive をインストールすると、SCSI カード（FMV-J124）経由で接続した CD-ROM ドライブでビデオ CD を再生できなくなります。

■ PC カードのセット

□ Card Executive 対応カードの場合

初めて PC カードを使用する場合は、ドライバをインストールする必要があります。

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントで Windows へログオンします。

2 PC カードをセットします。
「PCMCIA カードの構成が終了しました。」ダイアログボックスが表示されます。

3 「OK」をクリックします。
画面の指示に従って操作してください。

再起動後は、PC カードのセット／取り出しによるドライバのインストールは必要ありません。

□ Card Executive 非対応カードの場合

Card Executive に対応したドライバが用意されていない場合は、Windows 単体の環境と同じように、PC カードのセット／取り出しはパソコン本体の電源を切ってから行ってください。

1 PC カードをセットし、パソコン本体の電源を入れます。

2 Windows が起動後、管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
PC カードが認識されると、「PCMCIA カードが機器構成できません」ダイアログボックスが表示されます。

3 「PC カードに付属のドライバをインストールする」を選択し、PC カードに添付のドライバディスクをセットして「OK」をクリックします。
ドライバがフロッピーディスク以外で提供されている場合は、「OK」をクリックし、表示されるダイアログボックスでドライバのパスを入力してください。インストールの詳細は、各 PC カードに添付されているマニュアルをご覧ください。
以降、画面の指示に従って操作してください。

POINT

- PC カードモデムの場合は、「コントロールパネル」ウィンドウの「モデム」アイコンをダブルクリックして、モデムドライバをインストールする必要があります。

■ PC カードの取り出し

□ Card Executive 対応カードの場合

Card Executive 対応の PC カードは次のような手順で取り出すことができます。

1 タスクバーの「Card Excecutive」アイコンを右クリックし、「××××を停止する」をクリックします。

2 「PCMCIA カードの削除が完了しました」と表示されたら、PC カードを取り出します。

ただし、パソコン本体の PC カードアクセス表示が表示中は取り出さないでください。表示中に取り出した場合は、データを保証できません。

□ Card Executive 非対応カードの場合

Card Executive 非対応の PC カードの取り出しは、従来と同じ方法で行ってください（••▶『ハードウェアガイド』参照）。

■ 現在セットされているカードの確認方法

タスクバーにある「Card Executive」アイコンをダブルクリックするか、「コントロールパネル」ウィンドウの「Card Executive 2.0 for NT」アイコンをダブルクリックすることにより、現在セットされている PC カードの一覧を表示できます。

■ ドライバの削除方法

不要になったドライバは、他のドライバと同じようにコントロールパネルを利用して削除してください。

POINT

- モデムカードで利用する COM 番号の設定
  PC カードモデムで利用する COM 番号を設定する場合は、タスクバーの「Card Executive」アイコンをダブルクリックして、「設定」タブの「モデム機器構成」をクリックします。ここで、PC カードモデムが利用できる COM 番号を指定します。本パソコンで設定可能な COM 番号は、2 と 3 になります。ただし、他の機器がその COM 番号を利用している場合には、選択することができません。
- Card Executive の詳細は、オンラインヘルプをご覧ください。

NoteDock の操作方法

NoteDock を利用することにより、Windows の動作中にマルチベイユニットを交換できます。

■ デバイスの取り外し

マルチベイユニットを取り外す、または交換する場合は、タスクバーにある「NoteDock」アイコンを右クリックし、「デバイスを取り出す。」または「ベイデバイスの除去／スワップ」をクリックします。これにより、現在接続されているマルチベイユニットの切り離し処理が行われます。マルチベイユニットの取り外しが可能になるとダイアログボックスが表示されるので、マルチベイユニットを取り外してから「OK」をクリックしてください。

POINT

- 〔MF〕では、「OK」をクリックしたあと、本パソコンがサスペンドしてからマルチベイユニットを取り外してください。
  なお、次のデバイスを取り外すときは、上記の取り外し操作は必要ありません。
  - 内蔵 PC カードユニット（PC カードが挿入されていない場合）
    PC カードが挿入されている場合は、Card Executive を操作して PC カードを取り出してください。
  - 増設用内蔵バッテリユニット（内蔵バッテリの電池残量が十分にある場合、または AC アダプタを接続し電源が供給されている場合）
  - モバイルマルチベイカバー

重 要

- マルチベイユニットを取り外したまま本パソコンを使用しないでください。

■ デバイスの追加

マルチベイユニットを追加する場合は、タスクバーの「NoteDock」アイコンを右クリックし、「ベイデバイスの挿入」または「デバイスを追加」をクリックしてください。マルチベイユニットの追加が可能になるとダイアログボックスが表示されるので、マルチベイユニットを取り付けてから「OK」をクリックしてください。
新しいタイプのデバイスを初めて追加したときは、Windows を再起動する必要があります。この場合は、画面の指示に従い、Windows を再起動してください。

POINT

- 〔MF〕では、「OK」をクリックしたあと、本パソコンをサスペンドしたことを確認してからモバイルマルチベイユニットの交換を行ってください。

重 要

- ホットスワップ可能な状態で増設ハードディスクユニットを使用する場合、FAT 領域は最大で 4GB になります。また、「ディスクアドミニストレータ」を起動すると、他の OS との互換がなくなります。Windows NT 以外の OS で使用する予定のある増設ハードディスクユニットは使用しないでください。
- 増設ハードディスクユニットを NTFS で運用する場合は、「ドライバーズ CD」の「¥Update¥Psuite¥Readme.txt」を参照して、Windows 運用時にマルチベイユニットの交換ができないようにしてください。
- 取り出し操作を行っていない場合、サスペンド状態や Save To Disk 状態のときにマルチベイユニットを交換しないでください。点滅中に操作した場合、データを保証することはできません。

6 省電力

本パソコンの省電力について説明しています。

サスペンド／レジューム機能

■ サスペンド／レジューム機能とは

サスペンド／レジューム機能とは、SUS/RES スイッチ（••▶『ハードウェアガイド』参照）などで本パソコンを一時停止（サスペンド）したときに、メモリ内のプログラムやデータをそのままの状態で保持し、次に SUS/RES スイッチを押したときに、すぐに作業を再開（レジューム）できる機能です。
サスペンド／レジューム機能は、添付の Portables Suite（••▶ P.38）をインストールしている場合に使用できます。

POINT

- 〔NU〕〔MR〕〔MF〕では、サスペンド時のパソコン内部の情報の保存先は、BIOS セットアップの「サスペンド動作」の設定（••▶『ハードウェアガイド』参照）により、次の 2 通りがあります。
  - ・メモリ（システム RAM）
    「サスペンド動作」を「サスペンド」に設定したときは、システム RAM で保持されます。電源は、AC アダプタを接続している場合は AC 電源から、AC アダプタを接続していない場合はバッテリから供給されます。
  - ・ハードディスク（Save To Disk 領域）
    「サスペンド動作」を「Save To Disk」に設定したときは、ハードディスクの Save To Disk 領域に書き込まれて保存されます。また、この場合はパソコン本体の電源が自動的に切れます（••▶ P.58）。
- 〔NU〕〔MR〕〔MF〕では、ご購入時は「サスペンド」に設定されています。〔NA〕では、常に「Save To Disk」に設定されており、変更できません。

■ 留意事項

- サスペンド／レジューム機能を使用する場合は、添付の Portables Suite をインストールしてください（••▶ P.38）。
- Portables Suite をインストールしていない状態では、次の点に気をつけてください。
  - ・本パソコンをサスペンドしないでください。内蔵ディスクの内容が壊れる場合があります。
  - ・BIOS 設定の SUS/RES スイッチやカバークローズスイッチの部分の設定は必ず「使用しない」に設定してください（••▶『ハードウェアガイド』参照）。
- SUS/RES スイッチやカバークローズスイッチを使って、サスペンド／レジュームしたい場合は、Portables Suite をインストールし、BIOS 設定の SUS/RES スイッチやカバークローズスイッチの設定を行ってください（••▶『ハードウェアガイド』参照）。
- PowerPanel の設定は、次の BIOS 設定よりも優先されます。
  - ・「省電力モード」
  - ・「モデム着信によるレジューム」：〔NU〕〔MR〕〔MF〕
  - ・「時刻によるレジューム」：〔NU〕〔MR〕〔MF〕

- パソコンをお使いの状況によっては、サスペンドや Save to Disk 状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- サスペンドまたは Save to Disk 状態にしたあと、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、サスペンドや Save to Disk 状態にならないことがあります。
- レジューム時に、画面に一瞬ノイズが発生する場合があります。
- 次の場合は、サスペンドや Save to Disk 状態にしないでください。
  ・OS の起動処理中または終了処理中
  ・パソコンが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
  ・ハードディスク、フロッピーディスクまたはスーパーディスクにアクセス中
  ・モデムで通信中
  ・オートラン CD-ROM （セットすると自動で始まる CD-ROM ）を使用中
  ・ビデオ CD や DVD などを再生中
  ・音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
  ・CD-R や CD-RW に書き込みまたは書き換え中
  ・ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、ドライバのインストールが終了していないとき
  ・ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用
- 周辺機器を取り付け／取り外しする場合は、サスペンドせず、パソコン本体の電源を切ってください。また、周辺機器によっては、パソコン本体の電源を切らなくても接続できるものもあります。
  『ハードウェアガイド』、または周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- ネットワークに接続する場合は、必ず AC アダプタを接続してお使いください。Save to Disk 状態のときに AC アダプタの接続／取り外しを行うと、ネットワークの動作が不安定になることがあります。
- 別売の LAN カード（弊社の FMV-J182A 、FMV-J185 など）をお使いになる場合は、AC アダプタを接続し、BIOS セットアップの「省電力モード」（••▶『ハードウェアガイド』参照）を「使用しない」に設定してください。
- ネットワーク環境によっては、省電力機能を使用できない場合があります。
- バッテリ運用の場合は、バッテリ残量に留意してください。バッテリ運用中にバッテリが切れると、作業中のデータがすべて失われてしまいます。
- 長時間お使いにならないときは、サスペンド機能を使用せず、パソコン本体の電源を切ってください。
- バッテリを使っているときのサスペンド可能な時間は、新品のバッテリを満充電した状態で、約 3 日です（〔MR〕では約 1 日になります）。
- サスペンド時にはシステム RAM でのデータ保持のために電力を消費します。バッテリで使っている場合は、バッテリ残量に留意してください。サスペンド中にバッテリが切れると、作業中のデータがすべて失われてしまいます。長時間お使いにならない場合は、データを保存してから Windows を終了させ、パソコン本体の電源を切ってください。
- PC カードやプリンタなどの周辺機器を接続した状態で Save To Disk 機能を使用すると、レジューム時に周辺機器の情報が初期化されるため、Save To Disk 前の状態に戻らないことがあります。

- 次の場合は、サスペンド時のデータ保存時間が短くなるため、ACアダプタで本パソコンを運用することをお勧めします。
  ・BIOS セットアップの「省電力」メニューで、「モデム着信によるレジューム」の設定や「LANによるレジューム」の設定（••▶『ハードウェアガイド』参照）が「使用する」の場合
- お使いになるPCカードによっては、サスペンド時のデータ保存時間が短くなる場合があります。

■ サスペンド（作業を一時停止する）

サスペンドの動作には、「サスペンド」と「Save To Disk」の2種類があります。ただし、〔NA〕では「Save To Disk」の1種類のみです。
切り替えはBIOSセットアップで行います（••▶『ハードウェアガイド』参照）。
Save To Disk領域の設定については、「Save To Disk領域を作成する」（••▶ P.58）をご覧ください。
本パソコンをサスペンドさせるには、SUS/RES スイッチやカバークローズスイッチを使用する方法があります。

□ 留意事項

- サスペンド中はMAINスイッチをOFFにしないでください。作業中のデータがすべて失われてしまいます。
- オートランCD-ROMを使用しているときにサスペンドすると、レジューム時にCD-ROMが二重に起動し、誤動作の原因になります。二重に起動した場合は、CD-ROMのアプリケーションをすべて終了し、CD-ROMをセットし直してください。

□ SUS/RES スイッチを使用する

1 SUS/RES スイッチを押します。

状態表示 LCD（••▶『ハードウェアガイド』参照）の や などが表示されていないことを確認し、SUS/RES スイッチを押します。しばらくすると、状態表示LCDの が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消えます。

重要

- SUS/RESスイッチは4秒以上押さないでください。SUS/RESスイッチを4秒以上押すと、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

POINT

- BIOS セットアップの「サスペンド／レジュームスイッチ」の設定（••▶『ハードウェアガイド』参照）が「使用しない」の場合は、SUS/RES スイッチを押しても本パソコンはサスペンドしません。
- 【Fn】キーを押しながらSUS/RESスイッチを押すと、BIOSセットアップの「サスペンド動作」の設定（••▶『ハードウェアガイド』参照）にかかわらず、Save To Disk機能が働きます。ただし、この場合は、「モデム着信によるレジューム」や「LANによるレジューム」の設定（••▶『ハードウェアガイド』参照）が無効となります。なお、〔NA〕では常にSave To Disk機能が働きます。
- Save To Disk機能でサスペンドしてもSave To Disk機能が働かないときは、Save To Disk領域が削除されている可能性があります。Save To Disk 領域を作成し直してください（••▶ P.58）。

□液晶ディスプレイを閉じる

1 状態表示 LCD（••▶『ハードウェアガイド』参照）の⊟や⊡などが表示されていないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。

POINT

- BIOS セットアップの「カバークローズサスペンド」の設定（••▶『ハードウェアガイド』参照）を「使用しない」に設定すると、液晶ディスプレイを閉じたときにサスペンドしないように設定できます。ただし〔MF〕では「使用しない」に設定した場合でも、本パソコンの動作中は液晶ディスプレイを閉じたままにしないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。
また、この場合は液晶ディスプレイを閉じないでください。
- サスペンド状態になったことを示すピピッという音を確認してください（ボリュームを小さくしていると聞こえません）。また、ハードディスクの音が止まったことを確認してください。サスペンドしないまま液晶ディスプレイを閉じると、放熱が妨げられ、故障の原因になります。
- 液晶ディスプレイを閉じてもサスペンドしない場合、液晶ディスプレイを開いて SUS/RES スイッチを押し、サスペンドしたことを確認してから液晶ディスプレイを閉じてください。

■ レジューム（作業を再開する）

レジュームには、次の方法があります。

□留意事項

- レジュームしないときは、MAIN スイッチが OFF になっていないか確認してください。

□SUS/RES スイッチを使用する

液晶ディスプレイが開いているときに使用します。

1 SUS/RES スイッチを押します。

SUS/RES スイッチを押すと、状態表示 LCD の⏻が点滅から常時表示になり、本パソコンは動作状態になります。

重 要

- SUS/RES スイッチは 4 秒以上押し続けないでください。4 秒以上押すと、本パソコンの電源が切れます。

□液晶ディスプレイを開く

液晶ディスプレイが閉じているときに使用します。

POINT

- BIOS セットアップの「カバーオープンレジューム」の設定（••▶『ハードウェアガイド』参照）が「使用しない」の場合は、液晶ディスプレイを開いても本パソコンはレジュームしません。

Intel® SpeedStep™ テクノロジ

■ 対応機種

次の機種のみで対応しています。

- FMV-6113NA9/B
- FMV-6000NU/L
- FMV-6700NU9/L
- FMV-6750MR9/L
- FMV-6700MF9/X

■ Intel SpeedStep テクノロジの概要

本パソコンをバッテリで使っているときに、CPU クロックの周波数を落とすとともに、CPU 動作電圧を落とすことで節電するかどうかを設定します。
本パソコンを AC アダプタで使っているときと、バッテリで使っているときとで別々に設定できます。
「バッテリに合わせたパフォーマンス」に設定した場合、消費電力が低くなるので、バッテリ稼動時間が長くなります。

■ 留意事項

- タスクバーの (バッテリでお使いの場合は ）をダブルクリックしても設定画面が表示されます。
- BIOS セットアップの「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」（••▶『ハードウェアガイド』参照）の項目でも設定を変更できます。Intel SpeedStep の設定を変更すると、BIOS セットアップの設定も変更されます。

7 仮想メモリを設定する

ここでは、仮想メモリ（ページングファイル）の設定方法を説明します。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに十分な空き容量がないときは、別のドライブに設定を行ってください。
仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。
　初期サイズ：本体搭載メモリ +11MB
　最大サイズ：初期サイズ +50MB
ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルにできなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ＋ 1MB（仮想メモリの容量は含まず）の容量が必要です。

1. **管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。**

2. **「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**
   「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3. **「パフォーマンス」タブをクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。**
   「仮想メモリ」ダイアログボックスが表示されます。

4. **ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。**
   システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。

5. **「選択したドライブのページングファイルのサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。**

6. **「OK」をクリックします。**

7. **本パソコンを再起動します。**

なお、「レジストリクォータ不足」の警告が表示されたり、イベントビューアにエラーメッセージが表示される場合は、「こんなときには」（••▶ P.78）を参照してください。

8 ファイルシステムの変換

本パソコンのハードディスク上のシステムドライブは、FAT16 ファイルシステムでフォーマットされています。
FAT16 から NTFS に変換することで、セキュリティや信頼性を強化できます。
ファイルシステムを NTFS に変換する方法は、次のとおりです。

POINT

- NTFS に変換した場合、Windows NT 4.0、Windows 2000 以外のオペレーティングシステムからは、そのパーティションのファイルにアクセスできなくなります。

	Windows NT 4.0		Windows 2000	Windows 98/Me	Windows 95 OSR2 以降
	Service Pack4 以降	Service Pack3 以前			
Windows NT の NTFS	○	○	○	×	×
Windows 2000 の NTFS	○	×	○	×	×
FAT32	×	×	○	○	○
FAT16	○	○	○	○	○

- すでに作成されているショートカットから、アプリケーションが起動できなくなる場合があります。このときは、ショートカットを削除し、再度作成してください。

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

「コマンドプロンプト」ウィンドウが表示されます。

3 次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
convert n: /fs:ntfs /v
```

（n には、ファイルシステムを変換するドライブ名を指定します）
ブートパーティションを変換する場合は、次のメッセージが表示されます（ブートパーティションが C ドライブの場合）。

「ファイルシステムの種類は FAT です。
CONVERT で C: ドライブへの排他的アクセスを実行できないため、現時点では変換できません。次回のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしますか (Y/N)?」

4 【Y】キーを押し、【Enter】キーを押したあと、Windows を再起動します。

このとき、Windows は 2 回再起動します。

9 Save To Disk 領域を作成する

Save To Disk（セーブ・トゥ・ディスク）機能とは、メモリの内容をハードディスクの Save To Disk 領域に待避させることにより、次回電源投入時およびレジューム時に、サスペンド以前の作業を再開することができる機能です。

■ Save To Disk 領域とは

Save To Disk 領域は、ご購入時には作成されていません。Save To Disk 領域は、次の 2 つの形式のどちらかで作成します。

- **ファイル形式**
  Save To Disk 領域をファイルの一部として作成します。ハードディスクの C ドライブが FAT でフォーマットされており、搭載メモリ容量に応じた空き領域があれば作成できます（下記を参照）。
- **区画形式**
  内蔵ハードディスクに Save To Disk 領域を専用区画として作成します。PHDISK ユーティリティを起動する前に、ディスクアドミニストレータなどを利用して空き領域を確認してください（下記を参照）。
  必要量の空き領域が確保できない場合は、登録されている区画を削除し、必要な空き領域を作成してください。
  区画の変更を伴う場合は、データのバックアップおよび領域作成後に環境を復元する（Windows ／ドライバ／アプリケーションソフトの再インストールなど）必要があります。

■ Save To Disk 領域に必要な容量

Save To Disk 領域に必要な容量は、搭載されているメモリ容量によって次のように変更されます。

　Save To Disk 領域の必要な容量＝メインメモリ容量＋ビデオメモリ容量・その他

Save To Disk 領域の必要容量には、メインメモリ容量とビデオメモリ容量以外に若干の作業領域が必要です。そのため、Save To Disk 領域の容量は、メインメモリの容量とビデオメモリ容量の合計よりも多くなっています。

重 要

- メモリを増設した場合は、Save To Disk 領域を作成し直す必要があります。
- 区画形式を選択している場合、メモリを増設して Save To Disk 領域を作成し直すと、区画情報が変更され、内蔵ハードディスクに設定した全ドライブの内容が削除されます。事前に大切なデータはバックアップしておいてください。
  メモリを増設する可能性がある場合は、増設後のメモリに最適な未使用領域をあらかじめハードディスクに確保しておくことをお勧めします。十分な未使用領域が確保されている場合、区画情報は変更されません。未使用領域の確保は、「リカバリ CD-ROM」または「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」内の FDISK ユーティリティを使用してください。「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の作成方法は「ポータブル CD-ROM ドライブを使用するための設定」（••▶ P.11）をご覧ください。

■ Save To Disk 領域の作成

Save To Disk 領域は次の手順で作成します。
ポータブル CD-ROM ドライブをお使いの場合は、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をあらかじめ作成しておいてください（••▶ P.11）。

1 「リカバリ CD-ROM」を起動します。

・内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合
起動方法については「リカバリ方法」の「内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合」（••▶ P.67）の手順 1 ～ 4 をご覧ください。

・ポータブル CD-ROM ドライブをお使いの場合
起動方法については「リカバリ方法」の「ポータブル CD-ROM ドライブをお使いの場合」（••▶ P.68）の手順 1 ～ 2 をご覧ください。

2 「リカバリ CD-ROM」画面が表示されたら、【N】キーを押します。

コマンドプロンプトが表示されます。

3 次のように入力して、それぞれ【Enter】キーを押します。

・ファイル形式で作成する場合

```
phdisk /c /f
```

・区画形式で作成する場合

```
phdisk /c /p
```

現在のシステム構成に最適な Save To Disk 領域が作成されます。

POINT

▶ PHDISK ユーティリティの詳細は、「PHDISK ユーティリティについて」（••▶ P.60）をご覧ください。

4 次の操作を行います。

・内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合
CD-ROM を取り出してから、【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押して本パソコンを再起動します。

・ポータブル CD-ROM ドライブをお使いの場合
フロッピーディスクと CD-ROM を取り出してから、【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押して本パソコンを再起動します。

区画形式で作成した場合は、必要に応じてリカバリを行ってください。

10 PHDISK ユーティリティについて

ここでは、PHDISK ユーティリティの概要、使用方法およびオプションについて説明します。

PHDISK ユーティリティの概要

- **機能**
  Save To Disk 領域の作成、再フォーマット、削除および詳細情報の表示
- **格納場所**
  「リカバリ CD-ROM」の ¥Recover フォルダ内
- **動作環境**
  MS-DOS、Windows 98 の MS-DOS モード（Windows NT 4.0 上では動作しません）
- **Save To Disk 領域の必要容量**
  メインメモリ容量＋ビデオメモリ容量＋作業領域
  （区画形式で Save To Disk 領域を作成する場合は、ファイル形式で Save To Disk 領域を作成する場合よりも、大きな容量が必要になります）

POINT

- ファイル形式で作成された Save To Disk 領域を､「ドライブスペース」などのディスク圧縮機能で圧縮したドライブ上で使用することはできません。Save To Disk 領域をファイル形式で作成した場合は、ディスク圧縮機能を使用しないでください。
- 本パソコンに添付の「リカバリ CD-ROM」または「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」でパソコン本体を起動すると、Windows 98 の MS-DOS モードになります。

PHDISK ユーティリティの使用方法

PHDISK ｛オプション｝

オプションは次のとおりです。

/CREATE　/FILE（または /PARTITION）
/DELETE　/FILE（または /PARTITION）
/REFORMAT　/PARTITION
/INFO

それぞれのオプションは、先頭の 1 文字だけでも有効です。たとえば、/CREATE と /C は同じです。PHDISK とオプションの間、オプションとオプションの間は、それぞれ半角空白を 1 つ入れてください。また、PHDISK をオプションなしで起動すると、簡単な使用方法、現在作成されている領域などが表示されます。

■ オプションについて

- **/CREATE /FILE（または /PARTITION）**

このオプションは Save To Disk 領域がまだ作成されていない場合に使用します。
/CREATE /FILE と指定すると、Save To Disk 領域をファイル形式で作成します。
/CREATE /PARTITION と指定すると、Save To Disk 領域を区画形式で作成します。Save To Disk 領域の容量は、現在のシステム構成で最適な容量の領域を作成します。
区画形式で作成した場合、Save To Disk 領域の作成が終わると、その区画のフォーマットを開始します。フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使用しないようにします。

重 要

- ご購入時の設定では、ハードディスクに未使用領域がないため、区画形式で Save To Disk 領域を作成する際、FDISK ユーティリティを使用して区画情報の変更が必要となります。大切なデータはバックアップしてください。
- Save To Disk 領域を作成した場合は、必ずパソコン本体を再起動してください。
作成した直後に Save To Disk を行うと正しく動作しない場合があります。
- Save To Disk 領域はファイル形式、または区画形式のどちらか一方しか作成できません。
- ファイル形式は、FAT ファイルシステムの場合のみ利用できます。

- **/REFORMAT /PARTITION**

区画形式で作成されている Save To Disk 領域を再フォーマットします。
このオプションは、Save To Disk 機能を使用していて、読み出しエラーや書き込みエラーが起こった場合に使用してください。すでに作成されている Save To Disk 領域を再フォーマットします。再フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使用しないようにします。Save To Disk 領域の容量が変わることはありません。

- **/DELETE /FILE（または /PARTITION）**

すでに作成されている Save To Disk 領域を削除する場合に使用します。
/DELETE /FILE と指定すると、ファイル形式の Save To Disk 領域を削除します。
/DELETE /PARTITION と指定すると、区画形式の Save To Disk 領域を削除します。
Save To Disk 領域の容量を変更したい場合は、まず、/DELETE によってすでに作成された Save To Disk 領域を削除したあと、/CREATE によって新たに希望の容量の Save To Disk 領域を作成します。

重 要

- 区画形式で作成された Save To Disk 領域の容量を増やす場合は、システムが使用している区画の容量を FDISK ユーティリティを使用して減らす必要があります。区画容量を変更すると、それまでのデータはすべて失われます。作業前に大切なデータのバックアップを忘れないでください。

- /INFO

すでに作成されている Save To Disk 領域に関する詳細情報を表示します。

表示例

《区画形式》

Save to Disk 領域詳細情報：

開始セクタ：XXXXXXX（ヘッド X、シリンダ XXX、セクタ X）

全容量：XXXXX バイト

現在の状態：

現在の構成では、XXXXXk バイトの Save to Disk 領域が必要です。PHDISK はさらに多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

《ファイル形式》

Save to Disk 領域詳細情報：

現在の Save to Disk 領域は、ファイル名が C:¥SAVE2DSK.BIN で、サイズは XXXXXk bytes です。属性は、システム、隠しファイル、および読取専用です。

現在の状態：

現在の構成では、XXXXXk バイトの Save to Disk 領域が必要です。PHDISK はさらに多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

第 3 章

リカバリと再インストール

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」とソフトウェアの「再インストール」について説明しています。

1 リカバリ概要

Windows が起動しないなどの問題が発生した場合、リカバリを行います。

リカバリの概要

リカバリとは、「リカバリ CD-ROM」を使用して、OS、ドライバなどのプレインストールソフトウェアをご購入時の状態（「プレインストール仕様の確認」（••▶ P.14））に戻す作業です。
リカバリは、大きく 2 種類に分かれます。

- ご購入時の状態に戻す
  現在のハードディスクの領域設定はそのままで、C ドライブをご購入時の状態に戻します。
- 領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す
  ハードディスクの領域を設定したあとご購入時の状態に戻します。
  現在のハードディスク領域を変更したいときには、領域設定が必要になります。

リカバリの手順

リカバリは次の手順で行います。

■ ご購入時の状態に戻す場合

ハードディスクの領域設定は現在お使いの状態のまま、C ドライブのみをリカバリします。

1 リカバリ前の準備（••▶ P.66）

2 リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）
内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合（••▶ P.67）
ポータブル CD-ROM ドライブをお使いの場合（••▶ P.68）

3 リカバリ終了後（••▶ P.71）

■ 領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す場合

リカバリ中に画面上で確認しながら、ハードディスクの領域を再設定します。1GB から 4GB までの FAT16 領域が設定できます。100MB 単位で 2 区画まで作成できます。

1 リカバリ前の準備（••▶ P.66）

2 リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す）
内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合（••▶ P.69）
ポータブル CD-ROM ドライブをお使いの場合（••▶ P.70）

3 リカバリ終了後（••▶ P.71）

留意事項

- 次のソフトウェア、ドライバについては、リカバリ後、個別にインストールする必要があります。
  ・カスタムメイドオプションのアプリケーション
  ・モデムドライバ（〔NA〕〔NU〕〔MR〕モデム搭載モデル、〔MF〕でモデム／ LAN 両方を搭載しているモデル）（••▶ P.72）
- 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」以外を選択してリカバリを行った場合、D ドライブは区画設定されます。リカバリ前に必要なデータを必ずバックアップしてください。
- リカバリやハードディスクの領域の変更を行うと、C ドライブのファイルはすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップを行ってください。
- 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」を選択した場合は、リカバリを行っても、C ドライブ以外のドライブはフォーマットされません。
- リカバリを行うと、C ドライブは FAT16 に設定されます。NTFS に変換していた場合は、リカバリ後再度変換してください（••▶ P.57）。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらをいったん取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- ポータブルCD-ROM ドライブをお使いの場合は、「ポータブルCD-ROM ドライブを使用するための設定」（••▶ P.11）を行ってください。
- リカバリできる最大容量はお使いになるハードディスクにより若干異なります。
- 本書では内蔵ポインティングデバイスでの操作を前提に記述してあります。

2 リカバリ操作

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」の方法を説明します。

POINT

- リカバリに関する留意事項（••▶ P.65）をよくお読みのうえ、リカバリを行ってください。

リカバリ前の準備

リカバリを実行する前に AC アダプタを接続し、次の操作を行ってください。

■ ポータブル CD-ROM ドライブをお使いの場合

1. リカバリ CD-ROM 起動ディスクの作成を行います（••▶ P.11）。
2. 本パソコンにポータブル CD-ROM ドライブを接続します。
3. フロッピーディスクドライブがない機種は FDD ユニットを接続します。

■ BIOS 設定について

BIOS の設定をご購入時の設定に戻します（••▶『ハードウェアガイド』参照）。
お使いのモデルによっては、さらに設定が必要な場合があります。ご購入時の設定に戻したあと、次の設定を行ってからリカバリを実行してください。

- フロッピーディスクを使用する場合
  - ・「メイン」－「フロッピーディスク A」: 1.44/1.2MB 3.5"
  - ・「詳細」－「その他の内蔵デバイス設定」－「フロッピーディスクコントローラ」: 使用する
- スーパーディスクドライブを使用する場合
  - ・「メイン」－「フロッピーディスク A」: 使用しない
  - ・「詳細」－「その他の内蔵デバイス設定」－「フロッピーディスクコントローラ」: 使用しない

POINT

- BIOS セットアップの設定をご購入時と異なる設定に変更していると、インストール時にエラーメッセージが表示されることがあります。

リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）

本パソコンをご購入時の状態に戻します。ハードディスクの領域は変更されません。
内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合と、ポータブル CD-ROM ドライブをお使いの場合に分けて説明します。

POINT

- リカバリを行うと、C ドライブのファイルはすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップを行ってください。
- リカバリの所要時間は、10 分程度です。

■ 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合

次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM」

1 「リカバリ CD-ROM」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。

「起動メニュー」が表示されます。
「起動メニュー」が表示されない場合は、【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押して本パソコンを再起動してください。

4 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。

「リカバリ CD-ROM」画面が表示されます。

5 【Page Up】【Page Down】キー（〔MR〕〔MF〕は【Fn】＋【↑】【↓】キー）で説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。

6 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」が反転表示されていることを確認して【Enter】キーを押します。

確認の画面が表示されます。

POINT

- ハードディスクの領域を設定し直してリカバリしたい場合は、「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択してください。画面を見ながら区画を任意に設定し、リカバリできます（••▶ P.69）。

7 【Y】キーを押します。

しばらくすると「NORTON Ghost™」の画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。
リカバリが終了すると「復元作業が正常に終了しました。」と表示されます。

8 CD-ROM を取り出してから、本パソコンの電源を切ります。

9 以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください（••▶ P.71）。

■ ポータブル CD-ROM ドライブをお使いの場合

次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM 」
- 作成した「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」（••▶ P.11 ）

1 「リカバリ CD-ROM」と「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 【Page Up】【Page Down】キー（〔MR〕〔MF〕は【Fn】＋【↑】【↓】キー）で説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。

4 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」が反転表示されていることを確認して【Enter】キーを押します。

確認の画面が表示されます。

POINT

- ハードディスクの領域を設定し直してリカバリしたい場合は、「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択してください。画面を見ながら区画を任意に設定し、リカバリできます（••▶ P.69 ）。

5 【Y】キーを押します。

しばらくすると「NORTON Ghost™」の画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。リカバリが終了すると「復元作業が正常に終了しました。」と表示されます。

6 フロッピーディスクと CD-ROM を取り出してから、本パソコンの電源を切ります。

7 以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください（••▶ P.71）。

リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す）

ハードディスクの領域を設定したあと、本パソコンをご購入時の状態に戻します。画面で確認しながら、1 つのハードディスクを 2 個の領域に設定できます。1GB から 4GB までの FAT16 領域が作成できます。指定できる容量は 100MB 単位になります。
この方法では、C ドライブにリカバリを行い、D ドライブに NTFS の空の領域を作成します。

重 要

- 区画の設定を行うことにより、ハードディスクの内容が消えてしまうことがあります。あらかじめ必要なデータはバックアップしておいてください。

■ 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合

次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM」

1 「リカバリ CD-ROM」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。
「起動メニュー」が表示されます。
「起動メニュー」が表示されない場合は、【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押して本パソコンを再起動してください。

4 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
「リカバリ CD-ROM」画面が表示されます。

5 【Page Up】【Page Down】キー（〔MR〕〔MF〕は【Fn】＋【↑】【↓】キー）で説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。

6 「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
領域の設定方法により、ここからの操作は異なります。

7 領域の設定方法により、次の操作のどちらかを行ってください。

重 要

- 領域を変更すると、ハードディスク内のすべてのデータが失われます。

・「領域を任意に設定して戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
C ドライブの容量を任意に設定してください。【←】【→】キーを押すと、100MB 単位で、領域を設定できます。
領域を設定したら、【Enter】キーを押します。
・「領域をご購入時の状態にして戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
ハードディスク内の領域が、ご購入時の設定となります。

8 【Y】キーを押します。
領域の設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

9 【Enter】キーを押します。
本パソコンが再起動します。
「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。
「起動メニュー」が表示されます。

10 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
ファイルのコピーが始まります。
ファイルのコピーが終了すると、「復元作業が正常に終了しました。」と表示されます。

11 CD-ROM を取り出してから、本パソコンの電源を切ります。

12 以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください（••▶ P.71）。

■ ポータブル CD-ROM ドライブをお使いの場合

次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM」
- 作成した「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」（••▶ P.11）

1 「リカバリ CD-ROM」と「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 【Page Up】【Page Down】キー（〔MR〕〔MF〕は【Fn】＋【↑】【↓】キー）で説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。

4 「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
領域の設定方法により、ここからの操作は異なります。

5 領域の設定方法により、次の操作のどちらかを行ってください。

重 要

- 領域を変更すると、ハードディスク内のすべてのデータが失われます。

・「領域を任意に設定して戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
C ドライブの容量を任意に設定してください。【←】【→】キーを押すと、100MB 単位で、領域を設定できます。
領域を設定したら、【Enter】キーを押します。
・「領域をご購入時の状態にして戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
ハードディスク内の領域が、ご購入時の設定となります。

6 【Y】キーを押します。
領域の設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

7　【Enter】キーを押します。

本パソコンが再起動します。
ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーが終了すると、「復元作業が正常に終了しました。」と表示されます。

POINT

- 「CD-ROM プレイヤーを見つけることができません。」というメッセージが表示された場合は、一度電源を切り、しばらくしてからもう一度電源を入れてください。

8　フロッピーディスクとCD-ROMを取り出してから、本パソコンの電源を切ります。

9　以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください（••▶ P.71）。

リカバリ終了後

本パソコンの電源を切ったあと、次の操作を行ってください。

1　周辺機器が取り付けられている場合は、すべて取り外します（カスタムメイドオプションを除く）。

POINT

- PC カードをお使いの場合は、忘れずに PC カードを抜いてください。

2　電源を入れます。

3　以降、第1章を参照して Windows のセットアップを行ってください（••▶ P.8）。

セットアップ後、必要に応じてソフトウェアをアンインストールしてください（••▶ P.21）。
また、必要に応じてドライバ、添付アプリケーションまたはカスタムメイドオプションのアプリケーションをインストールします。

POINT

- 次のモデルをお使いの場合は、モデムドライバをインストールしてください（••▶ P.72）。
  ・〔NA〕〔NU〕〔MR〕モデム搭載モデル
  ・〔MF〕でモデム ／ LAN 両方を搭載しているモデル

3 ソフトウェアの再インストール

一部のドライバおよびアプリケーションのインストール方法を説明します。

重 要

- ソフトウェアのインストールを行った場合は、Windows NT Service Pack6a をインストールし直してください（••▶ P.74）。

操作に必要なもの

- ドライバーズ CD
- 「Microsoft® IME98」の CD-ROM
- 「ドライバのバックアップ」（••▶ P.12）で作成した「バックアップディスク」のうち、次のもの
  - ・「ドライバディスク for Windows NT(R) 4.0 V1.1 L10D」
  - ・「Realtek RTL8139 PCI Fast Ethernet Windows NT(R) 4.0 LAN Driver V3.91」（〔NA〕の LAN 搭載モデル）
  - ・「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter Windows NT(R) 4.0 LAN Driver V5.00.71」（〔NU〕〔MR〕〔MF〕の LAN 搭載モデル）

POINT

- カスタムメイドオプションのアプリケーションについては、添付の『アプリケーション補足説明書』をご覧ください。
- 必要なドライバやアプリケーションをインストールしたら、Windows NT Service Pack6a を必ずインストールしてください（••▶ P.74）。
- インストール時に「Windows NT Workstation 4.0 Disc1」の CD-ROM を要求された場合は、「c:¥support¥i386」と指定してください。

ドライバの再インストール

重 要

- すでにインストールされているドライバについては、特に問題がない限りインストールしないでください。

ドライバのインストールは、それぞれのドライバのインストール手順をご覧ください。
インストール手順は「ドライバーズ CD」内の次の表の場所にあります。

ドライバ	機種	インストール手順の保存場所とファイル名
ディスプレイドライバ	〔NA〕	¥Nt40¥AtiM6¥Readme.txt
	〔NU〕	¥Nt40¥I815em¥Readme.txt
	〔MR〕	¥Nt40¥AtiM4¥Readme.txt
	〔MF〕	¥Nt40¥Ati¥Readme.txt

ドライバ	機種	インストール手順の保存場所とファイル名
サウンドドライバ	〔NA〕	¥Nt40¥STAudio¥readme.txt
	〔NU〕〔MR〕	¥Nt40¥ACAudio¥readme.txt
	〔MF〕	¥Nt40¥YMAudio¥Readme.txt
LAN ドライバ	〔NA〕	¥Nt40¥Rtl8139¥install.txt
	〔NU〕〔MR〕〔MF〕 LAN 搭載モデル	¥Nt40¥Landrv¥install.txt
モデムドライバ	〔NA〕モデム搭載モデル	¥Nt40¥LTmodem3¥readme.txt
	〔NU〕〔MR〕モデム搭載モデル	¥Nt40¥LTmodem1¥readme.txt
	〔MF〕モデム搭載モデル	¥Nt40¥LTmodem2¥readme.txt
フラットポイントのドライバ	〔NA〕〔NU〕〔MR〕〔MF〕	¥Nt40¥Alps¥Readme.txt

この表以外のドライバについては、「ドライバーズ CD」内の「Indexcd.htm」で該当するドライバのフォルダ名称を確認し、フォルダ内の Readme.txt または Install.txt をご覧ください。

■ 3 モードフロッピーディスクドライバのインストール

3 モードフロッピーディスクドライバのインストールは、「バックアップディスク」から行います。

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「ドライバディスク for Windows NT(R) 4.0 V1.1 L10D」とラベルが貼られたフロッピーディスクをセットします。

3 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Windows NT エクスプローラ」の順にクリックします。

「エクスプローラ」ウィンドウが表示されます。

4 フロッピーディスクの「¥3mode」フォルダに移動します。

5 「floppy00.inf」を右クリックし、「インストール」をクリックします。

POINT

- 「floppy00」と表示される場合や、「floppy00」が複数表示される場合があります。これは、「登録されているファイルの拡張子は表示しない」がチェックされているためです。Windows NT エクスプローラで「表示」メニュー→「オプション」の順にクリックし、拡張子を表示するように設定してください。

ドライバがインストールされ、再起動メッセージが表示されます。

6 フロッピーディスクを取り出し、「はい」をクリックします。

Windows が再起動すると、3 モードフロッピーディスクドライバが有効になります。

■ Windows NT Service Pack6a のインストール

Windows NT Service Pack6a には、Windows NT に対する新しい修正、以前にリリースされた Service Pack の修正が含まれています。ドライバなどのインストール後や、ネットワークの設定を変更した場合は、Windows NT Service Pack6a をインストールしてください。

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

```
c:¥support¥sp¥sp6i386.exe
```

「Windows NT Service Pack セットアップ」ダイアログボックスが表示されます。

POINT

- Portables Suite をインストールしてある場合は、「コンピュータにサードパーティ製のシステムユーティリティ（パワーマネージメントや PC カードユーティリティなど）がインストールされているのを検出しました。」と表示されます。「OK」をクリックしてください。

4 「同意する」をチェックし、「インストール」をクリックします。

メッセージに従ってインストールを続けます。インストールが終了すると、再起動メッセージが表示されます。

5 「再起動」をクリックします。

POINT

- Windows のバージョン情報は、次の手順で見ることができます。
  1. 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
  2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。
- 新しいドライバなどをインストールしたあとは、Service Pack6a を再度インストールしてください。

■ Ultra DMA の設定

ハードディスクに Ultra DMA の設定を行うことができます。なお、設定できるチャネルは、次の通りです。

- 〔NA〕〔MF〕：プライマリ IDE
- 〔NU〕〔MR〕：プライマリ IDE ／セカンダリ IDE

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

```
c:¥support¥sp¥dmacheck.exe
```

「ATAPI DMA サポート」ダイアログボックスが表示されます。

4 「チャネル 0」の「DMA 検出状態」で「有効」をクリックし、「OK」をクリックします。

「警告」ダイアログボックスが表示されます。

5 「はい」をクリックします。
「完了」ダイアログボックスが表示されます。

6 「OK」をクリックします。

以上で設定は終了です。再起動すると、DMA が有効になります。
設定が有効になっているかどうかを確認するには、再度 dmacheck.exe を起動します。

プレインストールソフトの再インストール

■ Internet Explorer5.01 のインストール

ご購入時には Internet Explorer 5.01 がインストールされています。
再インストールを行う場合は、「リカバリ CD-ROM」の ¥IE5¥IE5SETUP を実行してください。

POINT

- Internet Explorer のインストールは、Windows NT Service Pack6a のインストール後に行ってください。

■ Intel SpeedStep のインストール（FMV-6113NA9/B、FMV-6000NU/L、FMV-6700NU9/L、FMV-6750MR9/L、FMV-6700MF9/X）

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
```
[CD-ROMドライブ]:¥nt40¥iss¥setup.exe
```
「ようこそ」ダイアログボックスが表示されます。

4 「次へ」」をクリックします。
「製品ライセンス契約」ダイアログボックスが表示されます。

5 「はい」をクリックします。
「セットアップの完了」ダイアログボックスが表示されます。

6 「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」をクリックし、「完了」をクリックします。

■ Windows 環境調査ツール（FM Advisor）のインストール

1. 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥nt40¥fmadv¥advisor¥setup.exe
   メッセージに従ってインストールを続けます。

■ Acrobat Reader のインストール

1. 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥nt40¥ac¥acrobat¥ar405jpn.exe
5. 「次へ」を２回クリックします。
6. 「情報」で「OK」をクリックします。
7. 本パソコンを再起動します。

■ FMV 診断のインストール

1. 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥nt40¥fmvdiag¥fmv505b¥disk1¥setup.exe
   メッセージに従ってインストールを続けます。

4

第 4 章

困ったときに

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1 こんなときには

ここでは、Windows の使用時に直面する問題について、Q&A 形式でまとめています。
また、トラブルが発生したときや困ったときの参照先を説明しています。

トラブル発生時の参照先

■ Windows に関して

添付の Windows のマニュアルか、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプをご覧ください。

■ ハードウェアに関して

『ハードウェアガイド』をご覧ください。

トラブルシューティング

□ オンラインヘルプやエラーメッセージの対処方法を参照しても原因がわからない

- 本パソコンでは、次のパソコン診断アプリケーションを用意しています。

  Windows 環境調査ツール（FM Advisor）

  FM Advisor の使用方法は次のとおりです。

  1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「FM Advisor」→「FM Advisor」の順にクリックします。
     調査結果が表示されます。

  FMV 診断

  FMV 診断の使用方法は次のとおりです。

  1. 「スタート」ボタン→「FMV 診断」の順にクリックします。
     あとはメッセージに従って操作してください。

POINT

- 起動中のアプリケーションや常駐プログラムはすべて終了してください。
- スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。
- フロッピーディスクドライブを診断する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをセットしてください。
- CD-ROM ドライブを診断する場合は、お手持ちの CD-ROM をセットしてください。

□ Windows が起動しなくなった

● **「ドライバーズ CD」に入っている「QT-PC/U」という診断プログラムでパソコンの診断をしてください。**
診断後にエラーコードが表示された場合は、メモなどに控えておき、お問い合わせの際にお知らせください。
診断時間は通常 5 〜 10 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

POINT

▶ 「QT-PC/U」によるパソコンの診断は、内蔵 CD-ROM ドライブから実行できます。ポータブル CD-ROM ドライブからは、実行できません。

1. 「ドライバーズ CD」をセットします。
2. 本パソコンの電源を一度切り、再び電源を入れます。
3. 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。
   起動メニューが表示されます。
4. CD-ROM を選択し、【Enter】キーを押します。
   自動的に診断が開始されます。診断は 6 項目について行われ、各項目の診断結果が画面の「STATUS」の部分に表示されます。
   ・診断でエラーが発生した場合は、「STATUS」部に「ERROR」と表示され、画面の「Message Display」部に８桁のエラーコードが表示されます。
   お問い合わせの際は、表示されたエラーコードをお知らせください。
   ・診断でエラーが発生しなかった場合は、「STATUS」部に「NO　ERROR」と表示されます。
5. 診断が終了し、画面の「Message Display」部に次のように表示されたら、CD-ROM を取り出します。
   Eject CD-ROM.
   Press Ctrl + ALT + DEL for power off
6. 【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押します。
7. 次のように表示されたら、【Enter】キーを押します。
   [Ctrl+ALT+DEL Push] -> Power off execute ok (ENTER)?
   約 5 秒後に電源が切れます。
   ただし、機種によっては次のように表示され、自動的に電源が切れない場合があります。
   Please power off manually
   この場合は、パソコン本体の電源を切ってください。

● **上記の操作でエラーが発生しなかった場合は、「リカバリと再インストール」（••▶ P.63）をご覧になり、本パソコンをご購入時の状態に戻してください。**
それでも解決しない場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

□ ディスプレイドライバ、サウンドドライバ、LAN ドライバが正しく動作しない

● **各ドライバをインストールし直す必要があります。**
お使いの機種に対応する各ドライバは、「デバイス一覧」（••▶ P.16）でご確認ください。インストール方法については、「ドライバの再インストール」（••▶ P.72）をご覧ください。

□ モデムを追加したい

● 次の手順で追加してください。
なお、モデム搭載モデルの場合は、「ドライバの再インストール」（••▶ P.72）で該当するドライバのフォルダ名称を確認し、フォルダ内にある Readme.txt をご覧ください。

1. 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
3. 「モデム」アイコンをダブルクリックします。「新しいモデムのインストール」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、「次へ」をクリックします。
5. 「製造元」からモデムメーカーを、「モデル」から該当するモデムを選択し、「次へ」をクリックします。

POINT

- モデムにドライバディスクが添付されている場合は、それらをセットしてから「ディスク使用」をクリックし、該当するモデムを選択します。

6. 「選択したポート」をクリックし、表示されている COMn（n には数字が表示されています）をクリックして、「次へ」をクリックします。
7. 「完了」をクリックします。
「モデムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
8. 「ダイヤルのプロパティ」をクリックします。
9. 所在地の設定を行い、「閉じる」をクリックします。
国／地域番号：現在お使いになっている国を選択します（例：日本）。
市外局番：現在お使いになっている場所の市外局番を入力します（例：03）。
外線発信番号：内線を使用している方で、外線にかける場合に必要な番号を入力します（例：0）。
ダイヤル方法：電話の契約がプッシュ回線の場合はトーン、ダイヤル回線の場合はパルスを選択します。
10. 「閉じる」をクリックします。

□ プリンタを追加したい

● 次の手順で追加してください。

1. 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」の順にクリックします。
3. 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
以降は、ローカルプリンタを追加するか、ネットワークプリンタを追加するかで手順が異なります。

<u>ローカルプリンタの場合</u>

4. 「このコンピュータ」をクリックし、「次へ」をクリックします。
5. 「利用可能なポート」の「LPT1:」をチェックし、「次へ」をクリックします（通常は LPT1 ですが、空いていない場合は別のポートを選択します）。
6. 「製造元」からプリンタメーカーを、「プリンタ」から該当するプリンタを選択し、「次へ」をクリックします。

POINT

- プリンタにドライバディスクが添付されている場合は、それらをセットしてから「ディスク使用」をクリックし、該当するプリンタを選択します。

7. 「プリンタ名」でプリンタの名前を付け、「次へ」をクリックします。すでにほかのプリンタドライバがインストールされている場合は、Windows アプリケーションで選択したプリンタを通常使うかどうかを選択し、「次へ」をクリックします。
8. プリンタを共有しない場合は、「共有しない」をクリックし、「次へ」をクリックします。共有する場合は「共有する」をクリックし、「共有名」を付け、「次へ」をクリックします。
9. テストページを印刷する場合は、「はい（推奨）」をクリックし、印刷しない場合は「いいえ」をクリックします。
10. 「完了」をクリックします。

ネットワークプリンタの場合

4. 「ネットワークプリンタサーバー」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「プリンタの接続」ダイアログボックスが表示されます。
5. 「共有プリンタ」からプリンタを選択し、「OK」をクリックします。
6. すでに他のプリンタドライバがインストールされている場合は、Windows アプリケーションで選択したプリンタを通常使うかどうかを選択し、「次へ」をクリックします。
7. 「完了」をクリックします。

□光磁気ディスクを使用したい

- PC カード（SCSI）接続の光磁気ディスクドライブを使用してください。

□光磁気ディスクドライブをスーパーフロッピー形式で使用したい

- 光磁気ディスクドライブの設定は必要ありません。光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットするには、本パソコンに添付の「MO ディスクフォーマッタ」を使用してください。

次の手順で MO ディスクフォーマッタをインストールしてください。

1. 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]:¥nt40¥moformat¥setup.exe
5. あとはメッセージに従ってインストールします。

なお、MO ディスクフォーマッタの使用方法については、「ドライバーズ CD」の「¥Nt40¥Moformat¥Readme.txt」をご覧ください。

POINT

- MO ディスクフォーマッタを使用する場合は、Card Executive に対応した SCSI ドライバを使用しないでください。

□キーボードの NumLock がオンの状態で、Windows を起動したい

- NumLock がオンの状態でログオフすると、次回から NumLock がオンの状態で起動します。

□ Windows 95 や MS-DOS のように、パソコン同士をシリアルケーブルで接続してデータをやりとりしたい

● RAS（Remote Access Service）の機能を使うことによって、シリアルケーブル接続でデータをやりとりできます。
「モデムを追加したい」（••▶ P.80）に従ってモデムの追加を行います。このとき、「製造元」から「(標準のモデムドライバ)」を、「モデル」から「シリアルケーブル PC-PC 接続」を選択してください。

□ ログオン時のパスワードに、大文字、小文字の区別はありますか？

● あります。

□ 自動ログオン（パスワード入力なしでログオンすること）に設定したい

● 次の手順で設定してください。

1. 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
3. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   regedt32
4. 「ローカルマシン上の HKEY_LOCAL_MACHINE」ウィンドウをアクティブにし、次のレジストリに移動します。
   「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion¥Winlogon」
5. 「AutoAdminLogon」をダブルクリックします。
6. 「文字列」の値を「1」に変更し、「OK」をクリックします。
7. 「DefaultPassword」をダブルクリックします。
8. 「文字列」に「DefaultUserName」の項目にリストされているユーザーのパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
9. 「レジストリ」メニュー→「レジストリエディタの終了」の順にクリックします。

重 要

- 手順 8 でパスワードを設定しない場合は、次回のログオン時のみ自動ログオンできます。
- レジストリの変更時に誤った設定を行うと、本パソコンが起動できなくなることがあります。変更するときは、十分に注意してください。
- 手順 5 および手順 7 のレジストリの値がない場合は、「編集」メニュー→「値の追加」の順にクリックし、それぞれ次のように入力して、「OK」をクリックします。
  - 手順 5
    値の名前：AutoAdminLogon
    データタイプ：REG_SZ
  - 手順 7
    値の名前：DefaultPassword
    データタイプ：REG_SZ
- ネットワーク環境において、Windows NT 4.0 の自動ログオン機能を使用する場合、本パソコン起動時にサーバーに接続できないことがあります。この場合は、サーバーへの再接続を行ってください。
- 自動ログオン機能を使用してネットワークに接続した場合、正規ユーザー以外がネットワークにログインすることが可能になります。セキュリティ上の問題が発生する場合、自動ログオン機能を使用しないでください。

□ マウスポインタのデザインを変えたい

- **「コントロールパネル」ウィンドウの「マウス」アイコンをダブルクリックし、「ポインタ」タブで設定してください。**

  なお、ご購入時や Windows の標準インストール後は、一部のデザインのマウスポインタしかインストールされていません。次の手順でマウスポインタをインストールしてください。

  1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
     「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
  2. 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
  3. 「Windows NT セットアップ」タブをクリックします。
  4. 「ファイルの種類」から「アクセサリ」をクリックし、「詳細」をクリックします。
  5. 「ファイルの種類」の「マウスポインタ」をチェックし、「OK」をクリックします。
  6. 「適用」をクリックします。
     「ディスクの挿入」ダイアログボックスが表示されます。
  7. 「OK」をクリックします。
     「ファイルが必要」ダイアログボックスが表示されます。
  8. 「コピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
     c:¥support¥i386
     ファイルのコピーが始まります。コピーが終了すると「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ダイアログボックスに戻ります。
  9. 「OK」をクリックします。

□「レジストリクォータ不足」の警告（「システムのレジストリクォータが不足しています。レジストリクォータを増やすには、「コントロールパネル」ウィンドウの「システム」を起動して「仮想メモリ」をクリックしてください。」）が表示された

- **次の手順で設定してください。**

  1. 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
  2. 実行中のアプリケーションを終了します。
  3. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
     「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
  4. 「システム」アイコンをダブルクリックします。
     「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
  5. 「パフォーマンス」タブをクリックし、仮想メモリの「変更」をクリックします。
  6. 「最大レジストリサイズ（MB）」に「19」と入力し、「OK」をクリックします。
     「システムのプロパティ」ダイアログボックスに戻ります。
  7. 「閉じる」をクリックします。
  8. 「今すぐ再起動しますか？」と表示されたら、「はい」をクリックします。

  操作後も上記のメッセージが表示される場合は、「最大レジストリサイズ（MB）」を「20」以上に設定してください。

□ 表示画面が乱れる

- **アプリケーションを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウの再表示を行ってください。**
  1. ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、アプリケーションを最小化します。
  2. タスクバーに最小化されたアプリケーションのボタンをクリックすると、ウィンドウが再表示されます。

POINT

▶ 次のような場合に表示画面が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
・Windows 起動時および画面の切り換え時
・DirectX を使用した一部のアプリケーション使用時

□ ネットワークに接続しないで本パソコンを使用したい

TCP/IP プロトコルを使用し、「DHCP サーバから IP アドレスを取得する」を設定した状態（ご購入時の設定）で、ネットワークに接続せずに本パソコンを使用する場合は、次の操作を行ってください。再び、ネットワークに接続して使用する場合は、元の設定に戻してから使用してください。
設定を行わずに起動すると、次のような現象が起こる場合があります。
・「DHCP クライアントは IP アドレスを取得できませんでした」というエラーが表示される
・Intel SpeedStep の設定が「最大パフォーマンス」から変更できなくなる

POINT

▶〔MF〕は、次の状態で本パソコンを起動した場合は、自動的に内蔵 LAN が使用できない状態となり、設定を行う必要はありません。
なお、LAN が使用できない状態は、本パソコンを再起動するまで有効です。
・「BIOS セットアップ」で「内蔵 LAN デバイス」を「自動」に設定している（ご購入時の設定）
・AC アダプタと LAN ケーブルが接続されていない

- **「DHCP サーバから IP アドレスを取得する」から「IP アドレスを指定する」へ設定を変更します。**
  次の手順に従って設定を変更してください。
  1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
     「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
  2. 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
  3. 「プロトコル」タグをクリックし、「TCP/IP プロトコル」を選択して、「プロパティ」をクリックします。
     「Microsoft TCP/IP のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
  4. 「IP アドレス」タグで「IP アドレスを指定する」をクリックし、「IP アドレス」「サブネットアドレス」を入力します。
  5. 「OK」をクリックします。
     「ネットワーク」ダイアログボックスが表示されます。
  6. 「OK」をクリックします。
  7. 本パソコンを再起動します。

重要

- 「IP アドレスを指定する」が指定されている場合は、本設定を行う必要はありません。
- 設定を変更したあと、再度ネットワークに接続して使用する場合は、次の手順を行ってください。
  1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
     「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
  2. 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
  3. 「プロトコル」タグをクリックし、「TCP/IP プロトコル」を選択して、「プロパティ」をクリックします。
     「Microsoft TCP/IP のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
  4. 「IP アドレス」タグで「DHCP サーバから IP アドレスを取得する」をクリックします。
  5. 「DHCP を有効にしますか？」と表示されたら、「はい」をクリックします。
  6. 「OK」をクリックします。
     「ネットワーク」ダイアログボックスが表示されます。
  7. 「OK」をクリックします。
  8. 本パソコンを再起動します。

- **BIOS セットアップで「内蔵 LAN デバイス」を「使用しない」に設定します。**

次の手順に従って設定を変更してください。

1. 本パソコンの電源を入れ、「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F2】キーを押し続けます。
2. 「詳細」－「その他の内蔵デバイス設定」－「内蔵 LAN デバイス」を「使用しない」に設定します。
3. 【Esc】キーを 2 回押し、「変更を保存して終了する」が選択されていることを確認してから【Enter】キーを押します。
4. 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

重要

- 再度ネットワークに接続して使用する場合は、BIOS セットアップの項目を元の設定を戻してください。なお、ご購入時は次のように設定されています。
  ・〔NA〕〔NU〕〔MR〕: 使用する
  ・〔MF〕: 自動

2 それでも解決できないときは

下記の連絡先にお問い合わせください。なお、お問い合わせ前に機種名と MODEL を確認し、「お問い合わせ前の確認シート」（••▶ P.88）に環境とトラブル状況などを記入してください。

■ 機種名と MODEL の表記場所

パソコン本体下面のラベルに記載されています。

■ 連絡先

こんなときには	こちらへ
添付品の不備	ご購入元
故障かなと思われたとき	「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」※またはご購入元
FM シリーズの技術的なご質問・ご相談	「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」※
本パソコンにインストールされているソフトウェアのお問い合わせ	「お問い合わせ一覧」（••▶ P.87）

※：「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」の連絡先は、添付の『修理サービス網一覧表』をご覧ください。

■ 情報サービス

また、次の方法で情報サービスを行っております。

富士通パソコン FAX サービス（カタログ、Q&A 情報）	043-299-3642（千葉） 06-6949-3270（大阪）
インターネット（製品の技術情報、Q&A 情報）	富士通パソコンホームページ FM WORLD.NET http://www.fmworld.net/

お問い合わせ一覧

本パソコンに添付されているソフトウェアの内容については、次の連絡先にお問い合わせください。なお、記載の情報は、2001 年 7 月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください。

- **はじめよう！インターネット（@nifty）**
  - 入会／ @nifty サービス全般
    ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター
    9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
    電話：0120-816-042
    （携帯・PHS・海外の場合：03-5444-2902）
    E-mail：feedback@nifty.com
    URL：http://www.nifty.com/support/madoguchi/index.htm
  - パスワード再発行／各種手続き／解約
    ニフティ株式会社 @nifty カスタマーセンター
    9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
    電話：0120-842-210
    （携帯・PHS・海外の場合：03-5471-5806）
    E-mail：feedback@nifty.com
- **VirusScan Ver.4.5**
  日本ネットワークアソシエイツ株式会社
  テクニカルサポートセンター
  9:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00（土日、祝祭日を除く）
  電話：03-3379-7770
  URL：http://www.nai.com/japan/
- **Adobe Acrobat Reader4.05**
  ソフトウェア提供会社様より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。
- **アプリケーション（カスタムメイドオプション）**
  各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。
- **その他　FM シリーズの技術的なご質問・ご相談**
  富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口
  （添付の『修理サービス網一覧表』をご覧ください）

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。
なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

お問い合わせ前の確認シート

■ お客様の環境

<table>
<tr><td rowspan="3">お使いの
パソコンの
機種は？</td><td colspan="2">機種名：FMV</td></tr>
<tr><td colspan="2">MODEL：FMV</td></tr>
<tr><td>購入日：</td><td>購入店：</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">メモリの容量は？</td><td colspan="2">本体標準：　　　MB</td></tr>
<tr><td>増設：　　　MB</td><td>［メーカー：　　　］
［型番：　　　］</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">増設した
周辺機器は？</td><td>種類</td><td>型番号</td><td>メーカー</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">お使いの
ソフトウェアは？</td><td>ソフトウェア名</td><td>バージョン／レベル</td><td>メーカー</td></tr>
<tr><td>Windows NT</td><td>4.00（Service Pack 6a）</td><td>－</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

■ トラブル状況

<table>
<tr><td>トラブルの内容は？</td><td></td></tr>
<tr><td>何をしているときに
起こりましたか？</td><td></td></tr>
<tr><td>エラーメッセージは
表示されましたか？
その内容は何ですか？</td><td></td></tr>
<tr><td>以前は問題なく
動作していましたか？</td><td>・以前は動作した
・今回初めて試した
・以前から動作しない</td></tr>
</table>

3 その他の留意事項

本パソコンをお使いになるうえでの留意事項を記載しています。

■ Windows NT の CD-ROM を要求された場合

ドライバのインストール時などに、「Windows NT Workstation 4.0 Disc1」の CD-ROM を要求される場合があります。このときは、「c:¥support¥i386」と指定してください。

重要

- 「C:¥Support¥I386」フォルダは削除しないでください。削除すると、ネットワークコンポーネントの追加などができなくなります。

■ 本パソコンで使用するソフトウェア

古いバージョン／レベルのソフトウェア（アプリケーション、ドライバ）を使用すると、本パソコンおよびソフトウェアが正常に動作しない場合があります。本パソコンに添付されているソフトウェアは、添付されているバージョンを使用するか、その最新版を入手して使用してください。

また、本パソコンに添付されていないソフトウェアの場合も、最新版を使用してください。

■ 他の OS を使うには

Windows 2000 など、他の OS を使うには、いくつかの設定を行う必要があります。また機種により使用できない OS もあります。詳しくは、富士通パソコンホームページ FM WORLD.NET（http://www.fmworld.net/）をご覧ください。

なお、インターネットをご利用になれない場合は、ご購入元にご確認ください。

■ Acrobat Reader について

市販のアプリケーションによっては、インストールの際に、Acrobat Reader を一緒にインストールするものがあります。このとき、本パソコンにプレインストールされている Acrobat Reader 4.05 よりも低いバージョンのものがインストールされてしまうことがあります。

バージョンをご確認のうえ、Acrobat Reader 4.05 をインストールし直してください（▶ P.76）。

■ ディスクアドミニストレータ

ディスクアドミニストレータがディスクにアクセスできるようにするために、初めてディスクアドミニストレータを起動したとき、ディスクに署名を書き込む必要があります。次の手順で署名を書き込んでください。

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール（共通）」→「ディスクアドミニストレータ」の順にクリックします。**

「ディスクアドミニストレータ」ダイアログボックスが表示されます。

2 **「OK」をクリックします。**

「確認」ダイアログボックスが表示されます。

3 「はい」をクリックします。
ディスクに署名が書き込まれ、ディスクアドミニストレータでディスクをアクセスできるようになります。

■ Windows NT 4.0 Service Pack6a に関する留意事項

- Windows NT 4.0 Service Pack6a をインストールした環境に新しいコンポーネントをインストールすると、正常に動作しない場合があります。
  これは、追加したコンポーネントのファイルが、Service Pack6a のコンポーネントのファイルと異なる場合があるためです。たとえば、Service Pack6a をインストール後、ネットワークを組み込んだときに、サーバサービスが正常に動作しなくなる現象が確認されています。原因は、「C:¥Support¥I386」からインストールされたネットワークモジュールが、Service Pack6a のネットワークモジュールと異なるためです。このような場合は、再度 Service Pack6a をインストールする必要があります。
- ネットワークがインストールされていない環境に Service Pack6a をインストールしたあと、フォントやマルチメディアドライバなどを追加する際に「参照」をクリックすると、Windows NT がインストールされているドライブしか表示されない場合があります。
  インストール元がフロッピーディスクまたは CD-ROM の場合は Windows NT がインストールされているドライブに適当なフォルダを作成し、このフォルダにインストールするドライバやファイルをあらかじめコピーしてからインストールしてください。
  なお、「マルチメディア」の「ドライバのインストール」では、フルパスを入力してインストールすることもできます。
- シャットダウン時またはログオフ時、次のエラーメッセージが表示されることがありますが、動作に問題はありません。
  「ウィンドウステーションがシャットダウン中であるためアプリケーションが初期化に失敗しました。」
  このメッセージが表示されたあとにログオンすると、日本語入力システムとして MS-IME97 を使用している場合、下記の現象が起きることがあります。なお、文字入力は正常に行えます。
  ・MS-IME97 のツールバーを「タスクバーに入れる」に設定していると、「日本語入力インジケータ」が表示されなくなることがあります。
  「日本語入力インジケータ」を表示させるには、MS-IME97 を再度オンにしてください。
  ・MS-IME97 のツールバーを「ドッキング可能」に設定していても、ドッキング機能が有効にならないことがあります。
- 「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」タブで、スクリーンセーバーとして「チャンネルスクリーンセーバー」を指定しないでください。アプリケーションエラーが発生します。
- ソフトウェアを使用するときに、次のようなメッセージが表示される場合があります。
  パフォーマンスモニタ：perfmon.exe -DLL が見つかりません。
  ダイナミック リンク ライブラリ snmpapi.dll が指定されたパス
  C:¥WINNT¥system32;.;C:¥WINNT¥system32;C:¥WINNT¥system;
  C:¥WINNT;C:¥WINNT¥system32;C:¥WINNT に見つかりません。
  この場合、次の方法で回避できます。
  ・ネットワークプロトコルに「TCP/IP プロトコル」を追加する。
  ・Windows NT Service Pack6a を再インストールする（••▶ P.74）。

- イベントビューアにエラーが登録される場合について
本ワークステーションへのログオン時、「イベントビューア」に次のエラーが登録される場合があります。この場合、下記に記載してあるいずれかの方法にて回避してください。

イベント ID：7001
ソース：　Service Contol Maneger
種類：　エラー
説明：　Protected Storage サービスは次のエラーのために開始できなかった Remote ProcedureCall (RPC) Service サービスに依存します :
サービスは開始後に開始待ち状態でハングしました。

イベント ID：7022
ソース：　Service Contol Maneger
種類：　エラー
説明：　Remote Procedure Call (RPC) Service サービスは開始時にハングしました。

・回避方法
・1. IPX プロトコルを削除する。
IPX プロトコルを使用していない場合は、次の手順に従い IPX プロトコルを削除します。
1.「ネットワークコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「ネットワーク」ダイアログボックスが表示されます。
2.「プロトコル」タブをクリックし、「ネットワークプロトコル」から「NWLink IPX/SPX 互換トランスポート」を選択し、「削除」ボタンをクリックします。
3.「はい」をクリックします。

・2. TCP/IP プロトコルをインストールし、TCP/IP プロトコルを使用する。

・3. DCOMCNFG の既定のプロトコルタブで NetBEUI の優先順位を上げる。
1.「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
2.「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
`dcomcnfg`
「分散 COM の構成のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3.「既定のプロトコル」タブを選択し、「DCOM プロトコル」から「Connection-oriented NetBEUI」を選択します。
4.「Connection-oriented NetBEUI」が「Datagram IPX」より上に表示されるまで「上へ」をクリックします。
5.「OK」をクリックします。

■ Internet Explorer 5.01 の留意事項

「スタート」ボタン→「設定」→「タスクバー」の順にクリックし、「「スタート」メニューの設定」タブから削除を行うとエラーが発生します。
削除するときは、「スタート」ボタンを右クリックして「開く」をクリックし、スタートメニューのプログラムから該当する項目を削除してください。

■ ダイヤルアップ接続設定後に発生する問題

Internet Explorer 起動時に、インターネット接続ウィザードのセットアップオプションで「新しいインターネットアカウントにサインアップします（電話回線はモデムに接続されています)」を選択してダイヤルアップ設定を行うと、Windows 起動時に次のエラーメッセージが表示されることがあります。

「1 つ以上のサービスまたはドライバがシステム起動時にエラーになりました。
詳しくはイベントビューアを使用してイベントログを確認してください。」

このときイベントログに「システム接続されたデバイスが機能していません。」という内容のエラーが記録されます。
このエラーメッセージを表示させないようにするためには、Windows NT Service Pack6a を再インストールしてください。

■ スーパーディスクドライブ取り付け時の設定〔MF〕

スーパーディスクドライブを取り付ける場合は、次の設定を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 「デバイス」アイコンをダブルクリックします。
「デバイス」ダイアログボックスが表示されます。

3 「デバイス」から「Sfloppy」を選択し、「スタートアップ」をクリックします。

4 「スタートアップの種類」の「ブート」をクリックし、「OK」をクリックします。
「デバイス」ダイアログボックスが表示されます。

5 「はい」をクリックします。

6 「閉じる」をクリックします。

7 Windows をシャットダウンし、本パソコンの電源を切ります。

8 スーパーディスクドライブを取り付けます。

9 本パソコンの電源を入れます。

10 BIOS セットアップを行います（••▶『ハードウェアガイド』参照）。

POINT

- スーパーディスクドライブにスーパーディスクまたはフロッピーディスクなどの媒体をセットした状態で Windows にログオンすると、セットされている媒体をエクスプローラからフォーマットできなくなります。
スーパーディスクドライブに媒体がセットされていないことを確認してから、Windows にログオンしてください。

■ ビデオ CD をお使いになる場合

本パソコンでビデオ CD をお使いになる場合は、媒体（ビデオ CD など）をセットしていない状態で本パソコンを起動後、ビデオ CD をセットして再生してください。

■ スーパーフロッピー形式の光磁気ディスク

SCSI カードなどに添付されているフォーマッタを使用して、光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットした場合、Windows で認識できないことがあります。光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットする場合は、添付の「MO ディスクフォーマッタ」を使用してください（••▶ P.81）。

■ 内蔵モデム経由でナンバーディスプレイ対応の電話番号に接続するには

「184」「186」を付けてダイヤルすると正常に接続できない場合があります。「184」「186」と接続先の電話番号の間に「,（カンマ）」を入れてダイヤルしてください。

■ ネットワーク使用時の留意事項

次の LAN デバイスを複数使用したネットワーク運用は行えません。

- 2 枚の LAN カード
- パソコン本体の内蔵 LAN デバイスと LAN カード
  この組み合わせで LAN カードをお使いになりたい場合は、BIOS 設定で、LAN を「使用しない」に設定してください（••▶『ハードウェアガイド』参照）。

■ プリンタ関連の留意事項

□ FMLBP シリーズ、FMPR シリーズをお使いの場合

デバイスフォントの白色を使用した場合、印刷結果が画面と異なる場合があります。白色で印刷する場合は、デバイスフォント以外で印刷してください。

□ FMLBP225PS、FMLBP211PS をお使いの場合

- 「ドキュメント」ダイアログボックスの「ドキュメントのオプション」内の「プリンタの機能」にある「標準に戻す」は機能しません（クリックしても、変更前の設定状態には戻りません）。
- 「ドキュメント」ダイアログボックスの「ハーフトーンカラーの調整」で「明るさ」や「コントラスト」などを調整しても、印刷には反映されません。
- 用紙の種類を「A4 横」のような「××横」に設定しても、正しく印刷できません。このようなデータを印刷する場合は、用紙の種類で「A4」、印刷の向きを「横」のようにして印刷してください。

□ 任意の用紙サイズを設定する場合

富士通 FM シリーズ用シリアルプリンタでフォームを使用する場合、使用できるフォームのサイズはそれぞれのドライバによって次の範囲となっています。この範囲外のものは使用できません。なお、下記のシリアルプリンタのすべてについて動作を保証するものではありません。

● 用紙サイズの設定
プリンタの「ファイル」メニュー→「サーバーのプロパティ」の順にクリックし、「用紙」タブの「新しい用紙を作成する」をチェックして作成します。任意の用紙サイズを設定できます。
詳細については、Windows NT のマニュアルおよびオンラインヘルプをご覧ください。
幅:50 〜 345.4mm(1.79 〜 13.6 インチ)高さ:50 〜 420.0mm(1.79 〜 16.5 インチ)のドライバ
(136 桁プリンタ)
「FUJITSU FMPR 180」
「FUJITSU FMPR 180 (Color)」
「FUJITSU FMPR-353G2」
「FUJITSU FMPR-353A2」
「FUJITSU FMPR-361」
「FUJITSU FMPR-372」
「FUJITSU FMPR-671」
「FUJITSU FMPR-654」
「FUJITSU FMPR-359F1」
「FUJITSU FMPR-455」
「FUJITSU FMPR-456」
「FUJITSU FMPR-371A」
「FUJITSU FMPR-374」
「FUJITSU FMPR-366 (Monochrome)」
「FUJITSU FMPR-373 (Color)」
「FUJITSU FMPR-366 (Color)」
「FUJITSU FMLP-351」
「FUJITSU FMPR-373 (Monochrome)」
「FUJITSU FMPR-672」
幅 : 50 〜 203.2mm (1.79 〜 8 インチ) 高さ : 50 〜 420.0mm (1.79 〜 16.5 インチ) のドライバ
(80 桁プリンタ)
「FUJITSU FMPR-302G2」
「FUJITSU FMPR-302A2」
「FUJITSU FMPR-204B」
「FUJITSU FMPR-204W」
「FUJITSU FMPR-101W」
「FUJITSU FMPR-101B」
「FUJITSU FMPR-102G」
「FUJITSU FMPR-601」
「FUJITSU FMPR-303G」
「FUJITSU FMJP-101G」
「FUJITSU FMPR-221G」
幅:50 〜 420.0mm(1.79 〜 16.5 インチ)高さ:50 〜 420.0mm(1.79 〜 16.5 インチ)のドライバ
(136 桁プリンタ)
「FUJITSU FMPR 360」
「FUJITSU FMPR 360 (Color)」
「FUJITSU FMJP-211」
幅 : 25.4 〜 345.4mm (1 〜 13.6 インチ) 高さ : 25.4 〜 558.8mm (1 〜 22 インチ) のドライバ
(ESC/P シーケンス)
「FUJITSU ESC/P」
「FUJITSU FMPR-375E」
「FUJITSU FMLP-371E」
「FUJITSU FMP-PR121G」

■ キーボード関連の留意事項

□親指シフトキーボード

● 親指シフトキーボード特有のキー(「〜」、「『」、「』」、「£」など)は、これらの文字の出力をサポートしたかな漢字モジュールを使用しなければ入力できません。
● IME 起動時に数字、記号キーを押すと、IME の入力モードが英数に変わります。一度【カタカナ/ひらがな】キーを押してください。
● Windows上で動作するMS-DOSアプリケーションでは、親指シフトキーボードでの日本語入力はできません。

□ 起動時のキーボード入力

Windows 起動時にキーボードから入力を行うと、イベントビューアに「ソース : i8042prt/ イベント ID : 19」のエラーが記載されることがあります。しかし、本パソコンを使用するうえで問題はありません。

■ PC カード

PC カードは、パソコン本体の電源を入れる前にセットしてください。
ただし、Portables Suite の Card Executive（••▶ P.47）をインストールした場合は、パソコン本体の電源を入れたあとでも PC カードをセットできます。
PC カードをお使いになる場合は、ドライバのインストールが必要になることがあります。
ドライバのインストール方法などの詳細は、PC カードに添付のマニュアルをご覧ください。

□ CardBus 対応の PC カード

Windows NT 4.0 では、CardBus 対応の PC カードは使用できません。
ただし、Portables Suite の Card Executive（••▶ P.47）を使用中は、一部の CardBus 対応 PC カードを使用できます。
Card Executive が対応している PC カードの一覧は、「ドライバーズ CD」内の「¥Update¥Psuite¥Readme.txt」に記載されています。

■ CD-ROM の取り出し

CD-ROM ドライブの EJECT ボタンを押しても、CD-ROM が取り出せないことがあります。その場合は、次の手順で CD-ROM を取り出してください。

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

2 CD-ROM ドライブのアイコンを右クリックし、「取り出し」をクリックします。

■ フロッピーディスクドライブユニットの着脱〔MR〕〔MF〕

フロッピーディスクドライブユニットを取り外した状態でフロッピーディスクドライブにアクセスすると、応答に時間がかかる場合があります。

■ Easy CD Creator をインストールする場合

Easy CD Creator をインストールする場合、次の手順で Windows(R) NetMeeting(R) 3.01 をアンインストールしてから行なってください。Windows(R) NetMeeting(R) 3.01 をアンインストールする前に Easy CD Creator をインストールすると、Easy CD Creator が使用できなくなります。

1 「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。

2 「インストールと削除」タブをクリックし、リストから「NetMeeting 3.01」を選択し「追加と削除」をクリックします。
「NetMeeting 3.01」ダイアログボックスが表示されます。

3 「はい」をクリックします。

4 「NetMeeting は正しく削除されました。」と表示されたら「OK」をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ダイアログボックスに戻ります。

5 「OK」をクリックします。

以上で Windows(R) NetMeeting(R) 3.01 のアンインストールは終了です。続けて Easy CD Creator をインストールしてください。
Windows(R) NetMeeting(R) 3.01 をお使いになる場合は、Easy CD Creator をインストールしたあと、次の手順でインストールしてください。

1 「リカバリ CD-ROM」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]：¥ie5¥ie5setup.exe

4 「同意する」を選択し「次へ」をクリックします。

5 「最小構成インストール、またはブラウザのカスタマイズ」を選択し、「次へ」をクリックします。

6 リスト中の「NetMeeting」にチェックをつけ、「次へ」をクリックします。

7 「インストールの完了」と表示されたら「完了」をクリックします。

Windows(R) NetMeeting(R) 3.01 をアンインストールせずに、Easy CD Creator をインストールしてしまった場合、「アプリケーションの追加と削除」から「NetMeeting 3.01」および「Adaptec Easy CD Creator4」をアンインストールしたあと、Easy CD Creator を再度インストールしてください。

■ FM Advisor の CPU 情報表示

FM Advisor の「CPU 情報」の表示において、CPU 名・CPU クロックが正しく表示されない場合があります。あらかじめご了承ください。

■ 日本語入力システムが 2 つ以上組み込まれている場合

MS-IME97 以外の日本語入力システムが組み込まれている場合、一度ログオフしてから再度ログオンすると、画面に日本語入力システムのツールバーが 2 つ表示されることがあります。標準に設定されていない日本語入力システム（【漢字】キーを押しても、アクティブにならない）を操作しなければ問題ありませんが、操作を行った場合、画面上にウィンドウの跡が残ることがあります。この場合は、Windows を再起動してください。

■ Windows Media Player などによる動画および音声再生

動画ファイルおよび音声ファイルを複数同時に起動すると、正しく再生できない場合があります。このような場合はファイルを 1 つだけ起動して、再生することをお勧めします。

■ ワンタッチボタン設定のタブ表記について

ワンタッチボタンを設定するときに表示されるプロパティと、ワンタッチボタン自体の表記で異なるところがあります。次のように読み替えてお使いください。

ボタンの表記	プロパティでの表記
ボタン 1	Application A
ボタン 2	Application B
ボタン 3	Internet
ボタン 4	E-mail

■ 外付けの CD-ROM ドライブユニット（FMV-NCD43S/403）をお使いになる場合

外付けの CD-ROM ドライブユニット（FMV-NCD43S/403）を Windows NT 上でお使いになる場合、BIOS の設定を変更する必要があります。
BIOS セットアップメニューで、次の変更を行ってください。

- 「詳細」メニュー内
  PCI 設定
  ・割り込み番号の予約
  IRQ 15：予約しない → 予約する

■ OAK V8 をお使いの場合

OAK V8 または、OASYS V8 を追加インストールした場合、管理者権限を持ったユーザーアカウント以外で初めてログオンすると、「OAK」のダイアログボックスが表示されます。この場合は OAK を使用する状況に応じて選択し、「OK」をクリックしてください。

索引

記号

A

C

D

E

F

I

M

N

P

S

U

V

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本パソコンにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただいております。
なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
   お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本パソコンでのみ使用できます。なお、お客様は本パソコンのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
   お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1 部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
   本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
   （1） 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
   本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
   ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
   （2） 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
   お客様が本ソフトウェア（本パソコンに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本パソコンに添付されている媒体を本パソコンとは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
   お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 保証の範囲
   （1） 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
   また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
   （2） 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
   （3） 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
8. ハイセイフティ
   本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。
   記
   原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております（http://www.microsoft.com/japan/）。
お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。
したがいまして、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的には推奨いたします。
ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合もありますので、ご利用前にはサービスパックの Readme.txt を必ずご確認ください。
また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。